



ROHM Group Innovation Report 2014

持続可能な社会を実現するために私たちが常に心がけていること

編集方針

本レポート発行の目的

ロームは、製品品質と経営品質の「革新 (innovation)」を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。そこで、この目標に向かっての進捗をステークホルダーの皆様へ報告し、ロームグループへの理解を深めていただくために「Innovation Report」を2012年度から発行しています。

なお、ロームは、2001年度から「環境報告書」を発行し、2007年度からは「CSRレポート」に改めて2011年度まで発行しました。本レポートは、これらをさらに発展させたものです。

報告対象組織

ローム株式会社およびロームグループ各社
(国内・海外関係会社)

報告対象期間

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)
一部、この期間前後の事象・取り組みも報告しています。

発行時期

2014年6月
(次回:2015年6月予定 前回:2013年6月)

参考にしたガイドラインなど

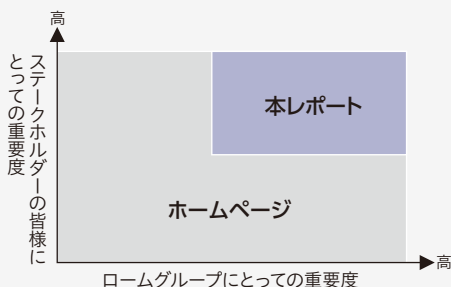
- ・GRI「サステナビリティレポートガイドライン 第3.1版」
- ・財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」
- ・環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」
- ・EICC行動規範 Ver.4.0

他の報告媒体との関係

■CSR情報について

ホームページには「CSRへの取り組み」として、本レポートに掲載していない情報も掲載しています。また、環境保全に関する詳細情報も「環境データブック(PDF)」として掲載しています。

本レポートとの関係は下図のとおりです。



■業績・財務情報について

法定の各種報告書のほか、「半期ごとの報告書」「アニュアルレポート」を発行し、これらのPDFをホームページにも掲載しています。

企業情報

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/about-rohm>

CSRへの取り組み

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/csr1>

株主・投資家情報

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>

目次

ROHM Group Innovation Report 2014

編集方針／目次	1
企業目的・方針	2
トップメッセージ	3
Product Quality Innovation	
製品品質の革新	5
LSI 事業 コミットメント	7
LSI 事業 ハイライト	8
ディスクリート・モジュール事業 コミットメント	11
ディスクリート・モジュール事業 ハイライト	12
次世代技術の研究開発	15
Management Quality Innovation	
経営品質の革新	16
CSR コミットメント	17
CSR活動 ハイライト	18
組織統治	19
人権／労働慣行	23
環境	25
公正な事業慣行	27
消費者課題(お客様への対応)	29
コミュニティへの参画および発展	31
CSRの目標・計画と実績	35
会社情報	37

ロームは国連グローバル・コンパクトに加盟しています。

国連グローバル・コンパクト(UNGC)とは
企業をはじめとする組織体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって持続可能な発展を実現することを目指した国際的なイニシアティブ。UNGCを支持する企業は、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を実現することが求められます。



企業目的・方針

ロームグループは、社会から信頼され、期待される企業であるために、創業当初から掲げている企業目的をすべての社員に浸透させています。

企業目的

われわれは、つねに品質を第一とする。
いかなる困難があろうとも、
良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、
文化の進歩向上に貢献することを目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための方針が定められており、事業活動の指針となっています。

経営基本方針

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。
世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、もって企業の発展を期する。
健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。
広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

品質管理基本方針

1. 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
2. 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
3. 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
4. すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
5. つねに生産方式の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
6. 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納入者に品質保証をさせること。

教育訓練基本目標

1. 経営者、管理者、監督者、一般従業員たるを問わず、絶えず新しい知識の吸収に努め、広い視野に立って科学的に判断のできる人を育成する。
2. 知識と経験を生かし、その道の第一人者としての仕事に徹する人を育成する。
3. 逆境にあっても、つねに活路を見出し、積極的に目的を貫く人を育成する。
4. 全体の個であることに徹し、チームワークとしての成果を優先する人を育成する。

教育訓練基本方針

1. 全従業員は、あらゆる機会をとらえて自己の啓発に努力しなければならない。
2. あらゆる指導的立場にある者は、いかなるときも模範となる行動態度を自ら示さなければならない。
3. 教育訓練は、直接上司が日常業務を通じて行うものを主体とし、あわせて職場外教育訓練を実施する。
4. 各階層の長は、部下を正しく評価し、効果的な教育訓練を計画的かつ継続的に行う。
5. 各階層の長の評価は、部下に対する教育訓練の効果の程度によって行われることを原則とする。

創業以来、情報化社会の進展や価値観の多様化など、企業を取り巻く環境は変化していますが、これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

創業時から受け継がれる ロームのCSV 「われわれは品質を 第一とする」

世界ではサステナビリティ(持続可能性)の重要性が認識され、さまざまな社会的な課題を解決しつつ、企業活動を実践していくCSV(共通価値の創造)という考え方が広がっています。

われわれロームは、創業時より掲げる「企業目的」に基づき、品質を第一とした良い製品の供給やモノづくりを通じて、文化の進歩向上に貢献できるよう、世界を舞台に挑戦を続けてまいりました。創業から50余年、企業規模や経営環境は大きく変化しましたが、これらの考えは不変であり、ロームのDNAとして連綿と受け継がれています。

「豊かな人間性と 知性をみがき、 もって社会に 貢献する」

企業活動を支えるのは、何よりも「人」であり、品質や環境問題などに妥協することなく真摯に取り組む姿勢ともいえます。その規範と言えるのが「経営基本方針」の一節に示された、この言葉です。

知識や専門性を追求するだけでなく、倫理観や向上心、謙虚さといった豊かな人間性を併せ持つことが重要だと考えています。心技体でバランスのとれた人材を育て、ロームのDNAを伝承していくことにより、あらゆる面で高品質かつ公正な企業活動を進めてまいります。



革新的な新製品開発により 社会的価値を創造

ロームは、製品を通じて社会に貢献するため、省エネルギー、小型化、安全、快適などをキーワードに数多くの革新的な製品を供給してまいりました。

なかでも電子化が進む自動車分野や着実な成長を続ける産業機器分野は、ロームが培ってきた高品質、高信頼性、安定供給が求められる市場であり、重点的に取り組んでおります。特に注目されているのが、エコカー分野やエネルギー分野（太陽光発電や風力発電、変電所など）で数多く発生する電力変換ロスを劇的に改善するパワーデバイスです。

SiC（シリコンカーバイド）を中心に世界をリードするパワーデバイスを次々と開発するとともに、高い技術力と豊富な経験を積んだアナログエンジニアが世界最先端のプロセスを駆使し、トップクラスの性能を誇るアナログパワーLSIを生み出しています。

さらに、これらを組み合わせるモジュール技術を融合させることで、より高効率かつ低損失の製品を提供し、社会全体の省エネルギー化に貢献してまいります。

小型、安全、快適性への貢献

普及が進むスマートフォンや市場拡大が期待されるウェアラブル端末など、電子機器の劇的な進化を支えるうえで重要となるのが超小型電子部品です。更なる小型化ニーズにこたえ、全く新しい発想の工法・技術を取り入れた世界最小部品「RASMID®（ラスミッド）シリーズ」の量産をスタートしました。世界トップシェアを誇る小信号ディスクリート製品の拡充と合わせ、革新的かつ高付加価値の製品提供を進めています。

国内外での導入が進むLED照明分野においては、業界最高の発光効率を誇る直管LED照明のほか、無線技術を活かした新しい照明システムの提案などで、オフィスや工場から住宅に至るまで、省エネルギーかつ快適な明かりを提供しています。

さらに、スマートフォンやセキュリティシステム、医療機器など、さまざまな用途で需要が拡大しているセンシングデバイス分野においては、ロームグループのラピスセミコン

ダクタ株式会社やKionix社と連携し、センサだけでなく、無線通信技術やローパワーマイコンを活かしたセンサネットワーク構築に向けた取り組みを強化しています。

すべての工程で 高い品質を作り込み、 トレーサビリティと 安定供給を実現

ロームグループでは、開発から製造までを一貫してグループ内で行う「垂直統合型」システムを採用していますが、これは品質を何よりも優先するというロームの企業目的の象徴であり、モノづくりを通じた安心の提供であると考えております。

また、過去の自然災害を教訓に、いかなるリスクが発生した場合でも影響を最小限にとどめ、お客様の要求納期を守る供給体制を維持するため、設備の防災化、生産拠点の再配置、全社的なBCP（事業継続計画）訓練などを実施しています。製品供給の面では、「多拠点生産」と「在庫管理」を徹底するとともに、あらゆるリスクを徹底的に検証し、対策を進めています。

企業目的の実践により、 あらゆる品質を高める

経営品質を高める取り組みとして、ロームグループを横断するCSR委員会の組織整備を行うとともに、電子業界のCSR規範であるEICC行動規範に準拠した活動にも積極的に取り組んでいます。近年は、外部監査に加えて、ロームグループ全体のEICC行動規範への適合状況を自己検証する内部監査を徹底しています。

ロームグループはこれからも「企業目的」「経営基本方針」を遂行し、あらゆる品質を高めるとともに新たなチャレンジを続けることで、社会に貢献してまいります。

2014年6月

Satoshi Sawamura

代表取締役社長 澤村 諭

垂直統合型生産体制が実現する 高品質・安定供給

高品質

全てのプロセスで高品質を実現します

ロームは企業目的に「品質第一」を掲げ、追求しています。「垂直統合型生産体制」によりグループ内で開発・設計、ウエハ製造を含めた生産、販売・サービスまでを行い、全てのプロセスで品質を高める活動に取り組んでいます。同時に卓越したトレーサビリティも実現しており、お客様に安心して製品をお使いいただける体制を整えています。

原材料のこだわり

シリコンインゴットの引き上げからウエハを製造



シリコン原石

Silicon Ingot

内製フォトマスク

ICチップデザインレイアウトからフォトマスク製造まで一貫した品質管理で高品質を追求

Photo Mask

CAD

内製金型・リードフレーム

品質つくりこみのため、リードフレーム打ち抜き用の金型リードフレーム、そして、モールドの金型も全て内製



Wafer

Frame

Wafer Process

Assembly Line

Wafer



SiCrystal社は2009年ロームグループの一員となったドイツのSiC単結晶ウエハメーカー。

安定供給

グループの総力をあげて供給責任を果たします

ロームグループでは、市場の状況をとらえ、求められる製品の供給責任を果たしています。一貫生産を軸に垂直統合型生産体制で、製造工程を自社で管理しており、このことにより、一般のファブレスメーカーやファンダリメーカーと比べ、外部から影響を受けにくい体制を構築しています。多拠点生産体制や、災害時対応の安全在庫の保有などのBCM(事業継続マネジメント)体制を整え、お客様への安定供給に努めています。

Product Quality Innovation

製品品質の革新

ロームグループでは
社会的な課題の解決に貢献できる
革新的な製品の開発を目指しています。

■ LSI事業

P.7~10

■ ディスクリット・モジュール事業

P.11~14

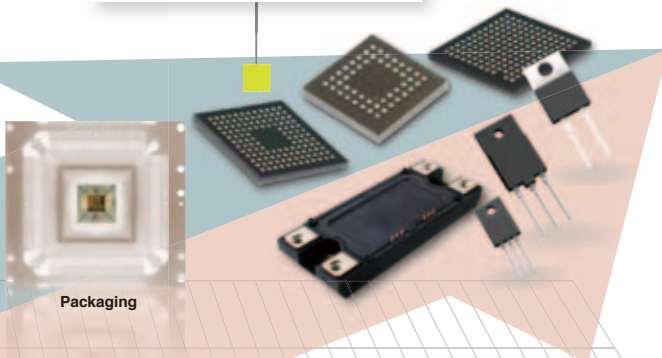
■ 次世代技術の研究開発

P.15

製品品質の革新

最先端パッケージ

CSP、BGA、COC、COF、スタックドパッケージまで最先端のアセンブリ技術



生産システムの自社開発

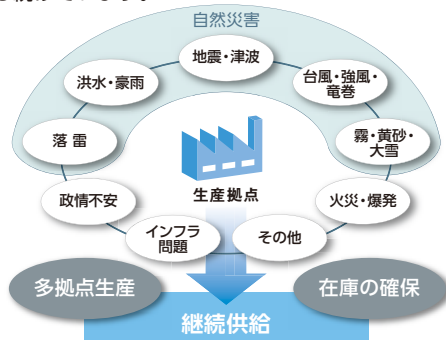
生産システムを自社で開発し、お客様のニーズにきめ細かくおこたえています。



生産システムの開発を自社で対応

BCM体制

全ての生産拠点でリスク検証を元に診断し、BCM体制を強化し続けています。



P28「リスクマネジメント・BCM」ご参照

ロームグループの製品群

IC

メモリ
アンプ / リニア
パワーマネジメント
クロック / タイマ
スイッチ / マルチプレクサ / ロジック
データコンバータ
センサ / MEMS
表示用ドライバ
モータ / アクチュエータドライバ
インターフェース
通信用LSI (LAPIS)
オーディオ / ビデオ
音声合成LSI (LAPIS)
マイクロコントローラ (LAPIS)

個別半導体

トランジスタ
ダイオード

パワーデバイス

SiCパワーデバイス
IGBT

光半導体

LED (発光ダイオード)
LEDディスプレイ
半導体レーザ
光センサ
IrDA 赤外線通信モジュール
リモコン受光モジュール

電子部品

抵抗器
タンタルコンデンサ

モジュール

パワーモジュール
無線通信モジュール
コンタクトイメージセンサヘッド
サーマルプリントヘッド
電池不要 無線通信モジュール (EnOcean)

セット製品

LED照明
パナリスト (血液分析システム)

あらゆる製品において高い品質をお約束します。



ローム株式会社 取締役
LSI生産本部
本部長 **松本 功**

高性能なBiCDMOSプロセス

LSI事業においては、ロームが得意とするアナログ技術をいかした「アナログパワーLSI」の開発に注力しています。電源LSIやモータドライバに代表されるアナログパワーLSIは、各種電子機器の電力変換やモータ駆動の高効率化、低損失化において重要な役割を担っており、タブレットPCなどのIT機器をはじめ、自動車や産業機器まで幅広く採用いただいています。

その性能向上のためには、個々のエンジニアの高い技術力や豊富な経験とともに、高耐圧や微細化など開発ニーズに合った製造プロセスの構築が重要となります。ロームでは、アナログパワーLSIに最適な高耐圧と微細化を両立した「BiCDMOSプロセス」を有し、プロセス技術と回路設計のすり合わせで高性能・高品質な製品を生み出しています。

垂直統合でのモノづくりが高品質の源泉

製品開発を支えるのは、高品質・高信頼性を追求した「垂直統合型」の生産ラインです。ロームでは、ウエハ

のインゴット引き上げから完成品に至るまでのあらゆる工程で高い品質をつくり込んでいます。また、開発・設計のエンジニアと製造のエンジニアが一丸となり、プロセス技術や工場特性を最大限に引き出し、他社に真似のできない特性と品質を保証することが可能になっています。

これらの垂直統合型生産体制は、自動車など、高い品質レベルが求められる市場において着実に実績を積み上げてきました。今後も社会の課題を解決する製品開発を進めるのはもちろん、高品質・高信頼の生産ラインをあらゆる製品に展開し、モノづくりを通じて社会に貢献してまいります。

幅広い製品提案力

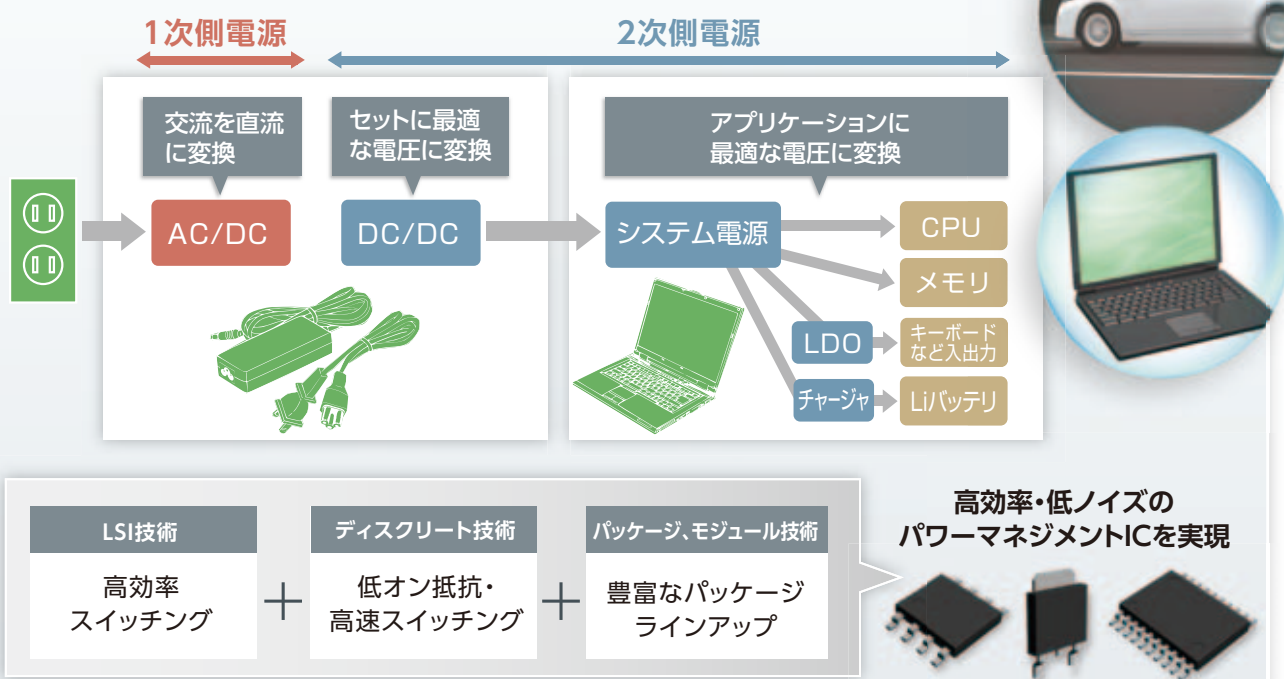
またロームは、ディスクリート電子部品からLSI、モジュール技術まで持っており、システムレベルでの製品提案できるのが大きな強みです。ラピスセミコンダクタ株式会社やKionix社なども含め、ロームグループの総合力を活かしたシステム提案力により、付加価値の高い製品開発を加速してまいります。

高効率なアナログパワー技術で 省エネに貢献

Analog power

パワーマネジメントIC

さまざまな電子機器の省エネ化の鍵を握るパワーマネジメントIC。ロームは、2次側電源で培った技術を1次側電源にも展開し、あらゆる電力変換を高効率でサポート。電源システム全体の最適化と、省エネに貢献します。



モータドライバ・制御IC

モータドライバICのトップメーカとして、高効率・高性能な製品をラインアップ。さまざまなアプリケーションに対応します。

- DCブラシモータドライバ
- 三相ブラシレスモータドライバ
- ODD用ドライバ
- デジタルスチルカメラ用ドライバ
- ステッピングモータドライバ
- ファンモータドライバ
- プリンタ用ドライバ
- カメラモジュール用レンズドライバ

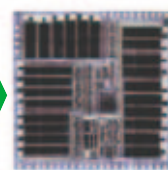
高性能アナログパワーを支える 新プロセスを開発

アナログとデジタルを1チップに搭載可能な「BiCDMOSプロセス」の、最先端ラインが完成しました。デジタル領域を従来の0.35 μm から、一気に0.13 μm に進化させたことにより、アナログマネジメントの高機能化や小型化が可能となり、セットの劇的な省エネ化や多機能化に貢献します。

BiCDMOS

Bipolar	アナログ回路を受け持つ LINEAR
CMOS	マイコン等のロジック回路を受け持つ LOGIC
DMOS	高耐圧・大電流の出力部を受け持つ POWER

1チップに



技術融合で進化し続けるロームグループ

Synergy

ロームとラピスセミコンダクタ株式会社、Kionix社は、それぞれの強みを活かし、融合することで次世代に向けた新製品を次々と生み出しています。



カテゴリトップメーカーとの協業

システム全体の最適化により省エネ化に貢献

ロームはかねてよりデバイス単体での提案ではなく、LSIのほかディスクリート・モジュールまで持つ強みを活かし、デジタル技術、アナログ技術を融合させた総合的なソリューション提案に取り組んでいます。近年は、CPUメーカーと開発段階から協業することでシステム全体の最適化を実現し、お客様のニーズに対応しています。

インテル社様

2008年ごろから協力を開始、自動車・産業機器など組み込み機器向けのチップセット&リファレンスボードのほか、タブレット向けやカーインフォテイメント向けの電源ICなどを開発。

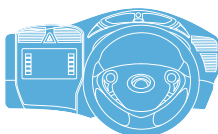
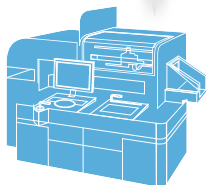
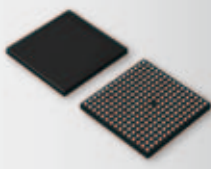
組込み機器向けの開発時間を短縮する

インテル® Atom™ プロセッサ E600シリーズ用
チップセット&リファレンスボード



タブレットの長時間駆動を支える

次世代のインテル® Atom™ プロセッサ用
低消費電力/パワーマネジメントIC

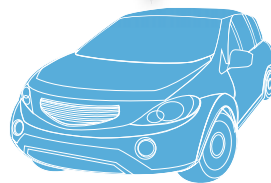


フリースケール・セミコンダクタ社様

2013年9月、グローバル車載市場で高いシェアをもつフリースケール・セミコンダクタ社様と協業スタート。車載品質ICやディスクリート部品でCPUをサポート。

自動車の高性能化をサポート

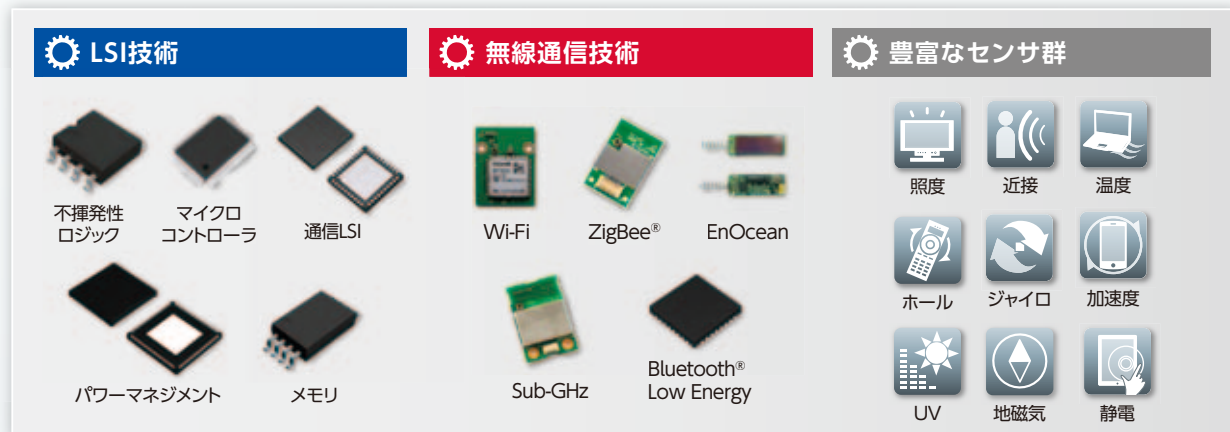
高信頼性 ICおよび
ディスクリート製品



Intel、インテル、Intel Atomはアメリカ合衆国およびまたはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

安全・快適・スマートな生活を実現する

ロームグループが有する豊富なセンサ群を活かす制御ICや無線通信技術で新しい社会の創造に貢献します。



新しい社会の創造に貢献



小型化と 省エネルギー化に 貢献する製品の 開発を進めます。



ローム株式会社 取締役
ディスクリート・モジュール生産本部
本部長

東 克己

小型・ローパワーの 追求により革新的な 世界最小デバイスを実現

ディスクリート・モジュール事業においては、ロームの強みである小型・ローパワー分野の技術を追求するとともに、大電力・高耐圧化に対応するパワーデバイスの拡充・強化を進めております。

小型・ローパワーの分野では、抵抗器やトランジスタ、ダイオードにおいて高い信頼性が認められ、世界中の自動車関連市場で採用が進んでいます。

またかねてよりさまざまなディスクリートデバイスで世界最小サイズを実現し、電子機器の小型化や高機能化に貢献してまいりましたが、この度まったく新しい工法・技術を取り入れた世界最小部品「RASMID®(ラスミッド)」シリーズの量産化に成功しました。普及の進むスマートフォンやタブレットはもちろん、市場拡大が期待されるウェアラブル機器の軽量化や高機能化に大きく貢献いたします。

社会全体の省エネルギー化に 貢献するパワーデバイスの 開発を加速

パワーデバイス分野は、劇的な低損失化を実現するSiC(シリコンカーバイド)を中心に他社にない幅広い製品展開の強化を図っております。2014年には、独自のパワーデバイス技術とLSIによる制御技術、そしてこれらを組み合わせるモジュール技術の3つの技術を融合し、お客様に最適なパワーソリューションを提供するため、新たにパワーデバイス製造部を組織しました。

太陽光発電や風力発電、変電所、電気自動車など、さまざまな箇所で発生する電力変換ロスを劇的に改善する優れた新製品を開発し、広く社会に供給することで、社会全体の省エネルギー化に貢献していきたいと考えています。

今後も独自の最新鋭・高効率の製造ラインを積極的に導入して、品質の安定と生産性を向上させるとともに、LSI技術との融合やモジュール化技術を活かした技術提案、製品提供を加速してまいります。

超小型・ローパワー技術の追求と、 省エネ パワーデバイスのラインアップ拡充

Discrete Semiconductors / Passive Components / Opto Electronics

トランジスタ / ダイオード

世界トップの小型・ローパワー技術でさらなる躍進

市場の小型化要求に対し、世界最小シリーズとしてラインアップの拡充を図っています。スマートフォン、ウェアラブル機器など電子機器の小型・薄型化に貢献しています。

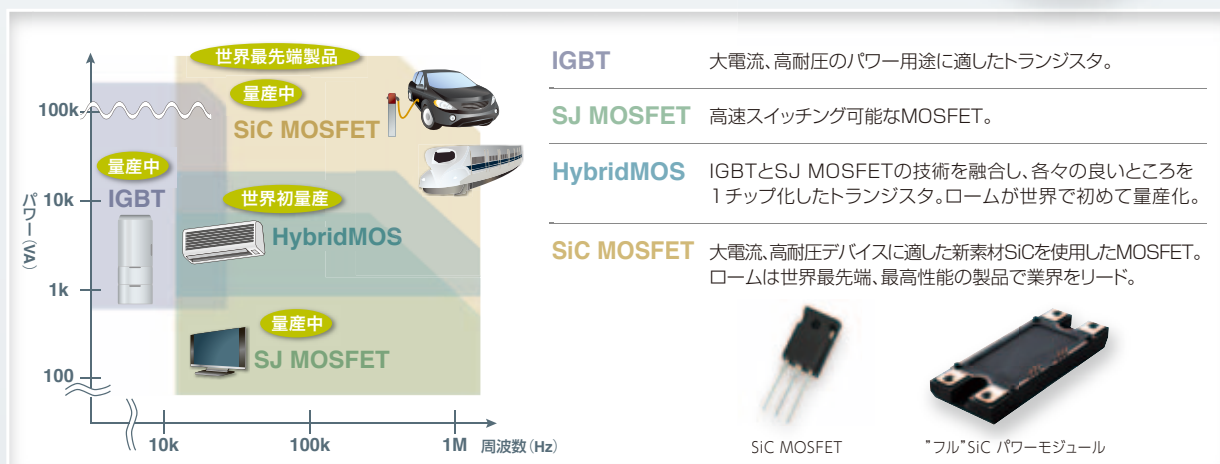
トランジスタ、ダイオードをはじめディスクリートの小型化技術を革新

RASMD® シリーズ ローム独自の新工艺を用いて小型化を実現し、驚異的な寸法精度を誇る世界最小部品シリーズ	
世界最小※ チップ抵抗器 SMR003  0.3×0.15mm 薄さ 0.1mm	世界最小※ ダイオード SMD0402  0.4×0.2mm 薄さ 0.12mm
世界最小クラス HMDパッケージ 複数のダイオードを1チップ化 HMD12 (6チップ搭載)  2.4×0.8mm 薄さ 0.3mm HMD8 (4チップ搭載)  1.6×0.8mm 薄さ 0.3mm	
世界最小 トランジスタ VML0604  0.6×0.4mm 薄さ 0.36mm	世界最小 超小型低背チップLED PICOLED®シリーズ  1.0×0.6mm 薄さ 0.2mm
世界最小 導電性高分子タンタルコンデンサ TC80 (Mケース)  1.6×0.85mm 薄さ 0.8mm	
世界最小 タンタルコンデンサ TUT (Uケース)  1.0×0.5mm 薄さ 0.6mm	

※ローム調べ

パワーデバイスのラインアップ強化

業界をリードするSiCパワーデバイスは、風力発電などの再生可能エネルギーや変電所といった大電力域での省エネ化を実現できるデバイスとして期待が集まっています。ラインアップ強化を進めるとともに、SiCウエハの6インチ化による生産効率の向上も図り、普及に向けて積極的な対応を実施しています。また、既存のシリコンデバイスについても、高耐圧化を進めており、パワー半導体全体でのラインアップを揃え、お客様の用途に応じた最適なソリューションを提供します。



幅広い製品開発で社会に貢献

Passive Components / Opto Electronics

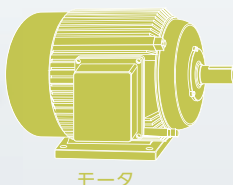
抵抗器

創業製品でもある抵抗器では、世界初のチップ抵抗器を開発（1974年）するなど、常に業界をリードする開発を進めてきました。

高信頼の小型分野に加え、車載・産業機器分野に対応するハイパワー品のラインアップを強化しています。

省エネに貢献

ハイパワー シャント抵抗器
(5Wクラス)



モータ

タンタルコンデンサ

タンタルコンデンサは、チップ積層セラミックコンデンサと比べ、小型・大容量、温度特性、DCバイアス特性が優れています。世界最小の小型パッケージ品をラインアップしています。

小型化に貢献

超大容量 TCSOシリーズ TUT (Uケース)



LED

独自のデバイス技術と精密加工技術の融合により、世界最小・薄型化を可能にしました。

小型分野に加え、車載・産業機器分野に対応するハイパワー化も進めています。

極小で鮮やか

PICOLED®シリーズ



ウェアラブル機器

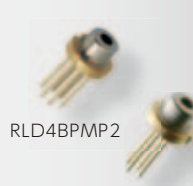
半導体レーザー

主に光ディスクやレーザープリンタ・複写機などで使われており、業界トップシェアを争っています。

直近ではモーションセンサやHDD熱アシスト磁気記録などの新規分野の創出に向けて開発を進めています。

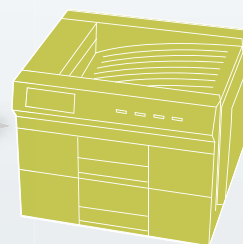
高速・高精細化

マルチビームレーザー



RLD4BPMP2

RLD2BPNK5



レーザープリンタ

Modules

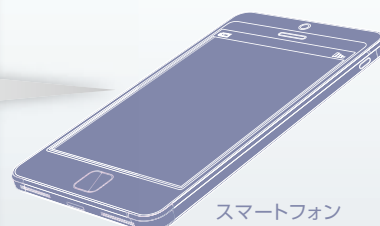
オプティカルモジュール

高輝度・高感度・高信頼性の光センサ、社内各部門とのコラボレーションにより製品化した複合モジュールの開発を行っています。

また、車載・産業機器分野への展開として高信頼性・車載専用ラインなどの構築に取り組んでいます。

高精度に感知

一体型近接センサ



スマートフォン

電源モジュール

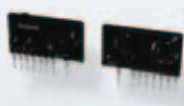
スイッチング電源モジュールは、確かな品質でさまざまな分野に採用されています。
LSIやディスクリートで培った技術のトータルソリューションで、お客様に最適な製品を提供します。

セットの電源の小型化・軽量化に貢献

BP527シリーズ



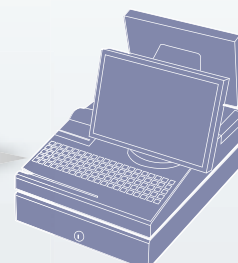
BP522シリーズ



サーマルプリントヘッド

半導体技術、厚膜印刷技術、薄膜製膜技術の3つの基本技術で、常に業界をリードしています。

充実のラインアップ

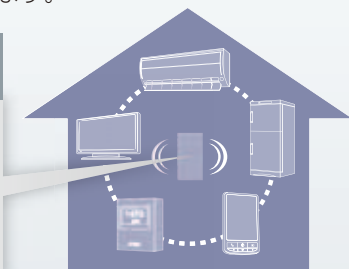
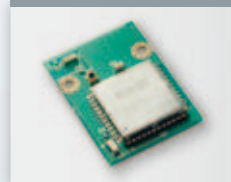


レジスタ

無線通信モジュール

近距離無線の各種方式に対応した無線通信モジュールを豊富にラインアップしています。ローム製のベースバンドICと高周波モジュール設計により、高い通信クオリティを実現しています。

国内電波認証
取得済み

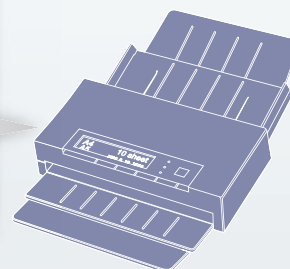


HEMSのイメージ

コンタクトイメージセンサヘッド

画期的な小型軽量化と高性能を両立した密着型コンタクトイメージセンサヘッドです。

小型化に貢献



スキャナ

LED Lighting

ロームグループでは、LED照明を中心に、LED素子からドライバIC、高効率電源モジュールまでLEDのトータルソリューションを提供しています。

発光効率業界

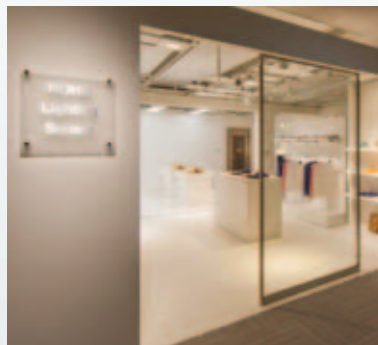
ナンバーワン
No.1

業界最高効率※
直管形LEDランプ 190lm/W

※2014年6月ローム調べ

京都駅前にLightingショールームがOPEN

2014年4月、京都駅前にあるローム京都ビジネスセンター内に最新のLED照明テクノロジーを見て、触れて実感できるショールーム『ROHM Lighting Square』を開設しました。空間展示によるあかりのシミュレーションをはじめロームのHEMSシステムも体感できます。



『ROHM Lighting Square』はビジネスのお客様向けの予約制ショールームです。

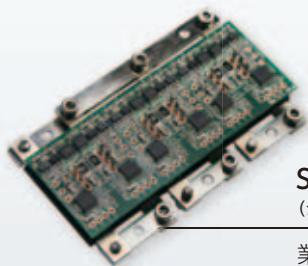
次世代を見据えて

次世代を見据えた新技術開発においても、パワー分野やセンシング技術を中心に材料、設計、製造、品質向上に至る調和の取れた研究開発活動を展開し、まったく新しい技術の創造を目指しています。



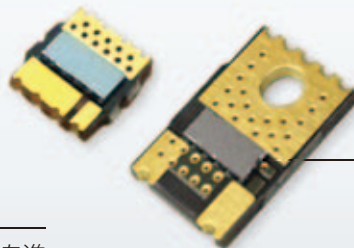
Power

新材料を積極的に取り入れることで、高効率・小型化をブレイクスルーする新デバイスの開発にチャレンジしています。



SiC
(シリコンカーバイド)

業界をリードする開発を進めており、その先進性が認められています。



GaN
(ガリウム・ナイトライド)

高速スイッチング性に優れ、Si(シリコン)デバイスでは不可能だった高周波アプリケーションへの活用が期待されています。

Sensing

省エネ、安全、安心な社会を目指し、ヘルスケアから低消費電力システムを実現するセンサネットワークまで幅広い研究開発を進めています。

微量血液検査システム 「バナリスト®(Banalyst)」

わずかな血液で数分間のうちに糖尿病や炎症マーカーなどを測定するシステム。日本のみならず、ヨーロッパでも販売を開始しています。



CIGSイメージセンサ

近赤外線で皮下血管などを観察できます。人体に無害のため、医療用途への活用が期待され、日本大学との共同研究もスタートしました。



バイタルセンサ

光学センシング技術で運動中でもリアルタイムに脈拍などが測定できるウェアラブルバイタルセンサを開発しています。



EnOcean (エンオーシャン)

電源、配線、メンテナンス不要の無線システム。2014年2月に奈良・當麻(たいま)寺に日本の寺社として初めて導入されました。



M2M市場にロームの成長の大きな可能性

M2M、トリリオン(1兆個)センサなどさまざまな言葉で議論されているWSN(ワイヤレスセンサネットワーク)は2020年に全世界で本格的に立ち上がってきます。新規事業推進部はWSNに取り組んでおり、ロームグループの得意とするセンサ・通信LSI・低消費MCUなどの技術を効果的に組み合わせ、モジュールレベルでのビジネスを展開しようとしています。特にロームの独自技術であるCIGSイメージセンサやバイタル信号のセンサを医療やヘルスケアといった新しい分野で製品化してまいります。

ローム株式会社
研究開発本部
新規事業推進部
部長
谷内 光治



経営品質の革新

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのためにCSR推進体制の強化を図るとともに、ISO26000に沿って、バリューチェーンを見渡して重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しています。

2013年度取り組みハイライト

組織統治



- CSR月間
- 海外生産会社6社にてEICC監査を受審
- 社会的責任投資における評価

P.19~

人権/労働慣行



- サプライチェーンにおける人権尊重
- イノベーション勉強会
- 従業員組合共催イベント“秋フェス”開催

P.23~

環境



- 環境負荷低減活動
- ローム京都駅前ビルにおける取り組み

P.25~

公正な事業慣行



- コンプライアンス 体制・行動指針 (ロームグループ行動指針改訂)
- サプライチェーン全体でのCSRの普及・浸透
- 紛争鉱物の不使用に向けた取り組み
- リスクマネジメント・BCM体制

P.27~

消費者課題(お客様への対応)



- 品質保証体制の更なる強化
- 情報セキュリティマネジメントシステム認証 (ISO/IEC27001) 取得

P.29~

コミュニティへの参画および発展



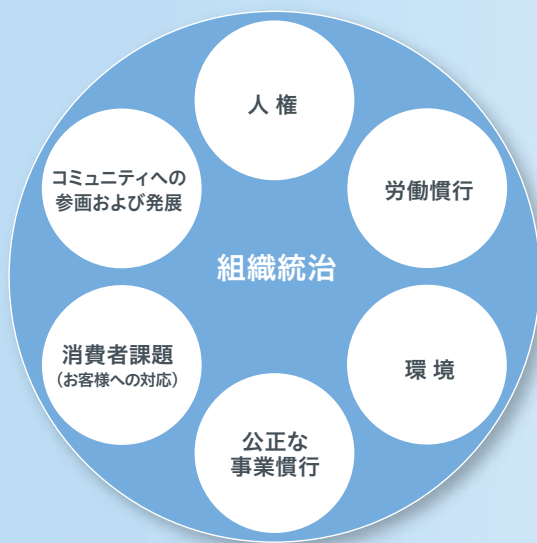
- 社会貢献活動(教育・文化・交流・環境)
- フィリピン台風30号被災地支援活動

P.31~

CSRの目標・計画と実績

P.35~

ISO26000 7つの中核主題



経営品質の強化に 全力で取り組んで まいります。



ローム株式会社 常務取締役
品質担当、新規事業創出担当
[委員長] 品質委員会、
中央安全衛生委員会、CSR推進委員会

高須 秀視
応用物理学会フェロー
[客員教授] 清華大学、浙江大学、
西安交通大学、大阪府立大学

経営品質と会社の品質

半導体・電子部品業界では、お客様は単に品質が良
いだけでは製品の購入の判断はされず、QCDS(=品
質、コスト、納期、サービス)などの「製品品質」に、CSR
(企業の社会的責任)である「経営品質」を加えた「会社
の品質」という総合的な見方で製品の購入を判断され
る傾向が強まっています。

ロームでは「会社の品質」をさらに向上させるべく活
動を進めています。



グループを挙げてCSR推進に 取り組みます

2012年度、ロームグループでは国内外生産会社20
社に「CSR推進責任者」を任命するとともに、「CSR推進
委員会」を設置し、月に1度の開催を継続しています。

また、CSR活動の実施状況の確認として、各々の会社
では自主的に「CSR内部監査」を実施し、さらにローム
CSR室によるEICC(電子業界CSRアライアンス)行動規
範に基づく「CSR統括内部監査」を受審しています。この

監査結果を各社へ水平展開することで、問題点の共有化
を図りグループ全体のレベルアップを目指しています。

2013年度にはロームグループ海外生産会社6社に
おいて、自主的に「EICC監査」を受審し、更なるCSRの
向上につなげています。2014年度にはロームを含む
国内生産会社6社においても「EICC監査」の受審を計
画しています。

品質委員会を通じ 品質第一を徹底します

ロームは「つねに品質を第一とする」という企業目的
を掲げ、開発・生産・販売活動を実施しています。われわ
れの品質に対するこれまでの考え方は「QCDS全てに
対する品質」という考えであり、普遍的で概ね生産者側
の視点でとらえてきました。一方、世界では品質は、「お
客様視点」を最優先とする考え方にシフトしています。

この点に鑑み、企業目的に掲げる、品質の在り方につ
いて、世界をリードする品質を実現するため、全社から
適任者を招集し、ローム社内にお客様視点で製品の安
全・安心を強化する「品質委員会」を発足させました。こ
の「品質委員会」は、生産者視点であった考え方を、お
客様視点での思考に180度変え、さらにその目的達成
のために事業組織を超えて全社員が一丸となって活動
できる体制としています。

ロームグループのCSR推進活動

CSR推進活動の強化

ロームグループでは2007年にロームCSR推進室（現CSR室）を設け、社会貢献などの活動を開始しました。

2011年の国連グローバル・コンパクトへの加盟を皮切りにロームグループのCSRは「経営品質を高める活動」と位置づけを変え、CSR変革3カ年計画を策定し、着実に実行してきました。

今後は国内外のお取引先様を含めたサプライチェーン全体でのCSR活動や全生産会社におけるEICC監査受審などバリューチェーン全体でCSRのレベルアップを図っていきます。

CSR研修の実施

ステークホルダーの皆様からCSRへの期待が急速に高まるなか、ロームグループでは社員への啓発を目的としてCSR研修をグローバルに展開しています。

ロームにおける階層別CSR研修などの受講者は年間300名を超えています。

さらに、ロームグループで2013年度に実施した営業職対象CSR研修の受講者は国内で253名、海外では200名を超え、ロームグループのCSRの取り組みや、お客様からのCSR監査・紛争鉱物などについての理解を深めています。

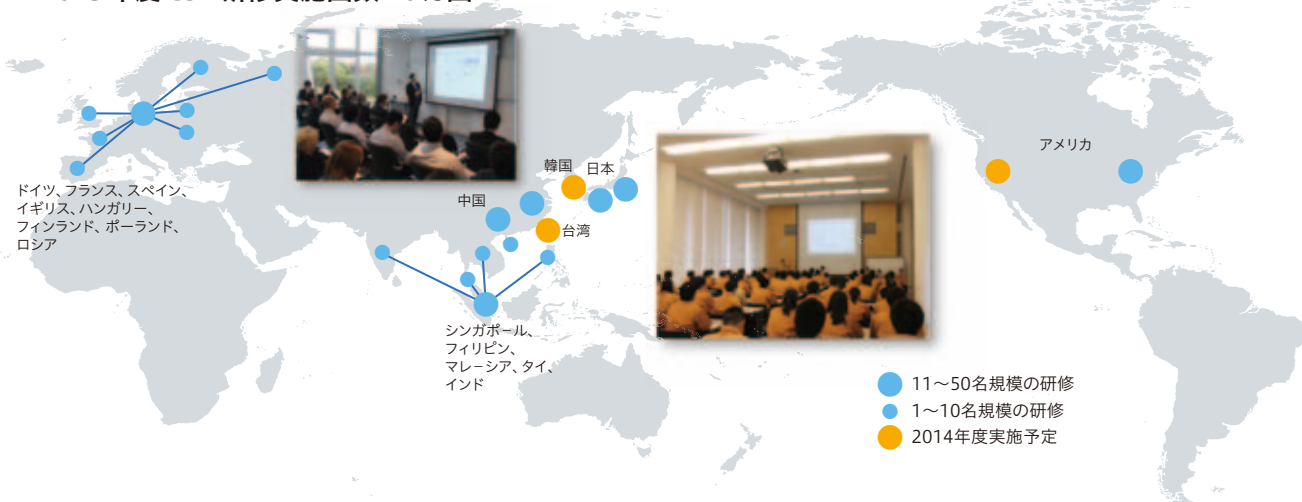
特に海外では世界の電子機器・部品工場が集中している中国（上海・深圳）での研修を始め、アセアン・インドの販売を拡大する上で重要な役割を果たしているシンガポール、欧州全域の主管窓口であるドイツでの研修を通じて、EICCや紛争鉱物の重要性の理解を深めました。

2014年度は、アメリカ、韓国、台湾の営業・開発拠点での研修を実施していきます。

ロームグループのCSR変革3カ年計画



2013年度 CSR 研修実施国数 16カ国





組織統治

コーポレート・ガバナンス体制

取締役会（取締役）

ロームでは、取締役会において取締役がグループ経営に関し、十分な議論のうえに的確かつ迅速に意思決定できるよう、その人数を10名以内と定め、その機能を高めています。また、独立した社外取締役2名を選任し、取締役による相互監督機能の強化を図っています。

取締役の役員報酬および役員賞与に関しては、取締役報酬協議会が当該期の連結経常利益を評価指標とする業績連動型報酬制度に基づき決定し、取締役の経営責任の明確化に努めています。

監査役会（監査役）

経営の透明性・客観性を確保するため、監査役会を構成する5名の監査役は全員を独立した社外監査役としています。

各監査役は、取締役との面談、取締役会などの重要な会議への出席や業務の調査などを通じて、取締役の業務執行を監査しています。

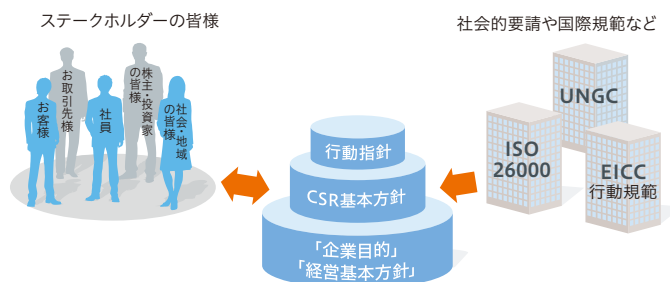
また、会計監査人や内部監査部門と連携し、監査精度の向上を図っています。

内部監査部門

内部監査部門として監査室を設置しています。監査室は、ロームグループ全体の業務について、社員との面談や文書・帳票類の査閲などを実施しています。

また、監査役や会計監査人とも連携し、社内規定の準拠性、資産の健全性などを監査しています。

CSRマネジメント



社会の持続可能な発展への貢献

ロームグループは、創業当時より「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針の実践を通じて、ステークホルダーの皆様との相互信頼関係を構築することで、グループの持続的な成長と、社会の健全な発展に貢献してきました。

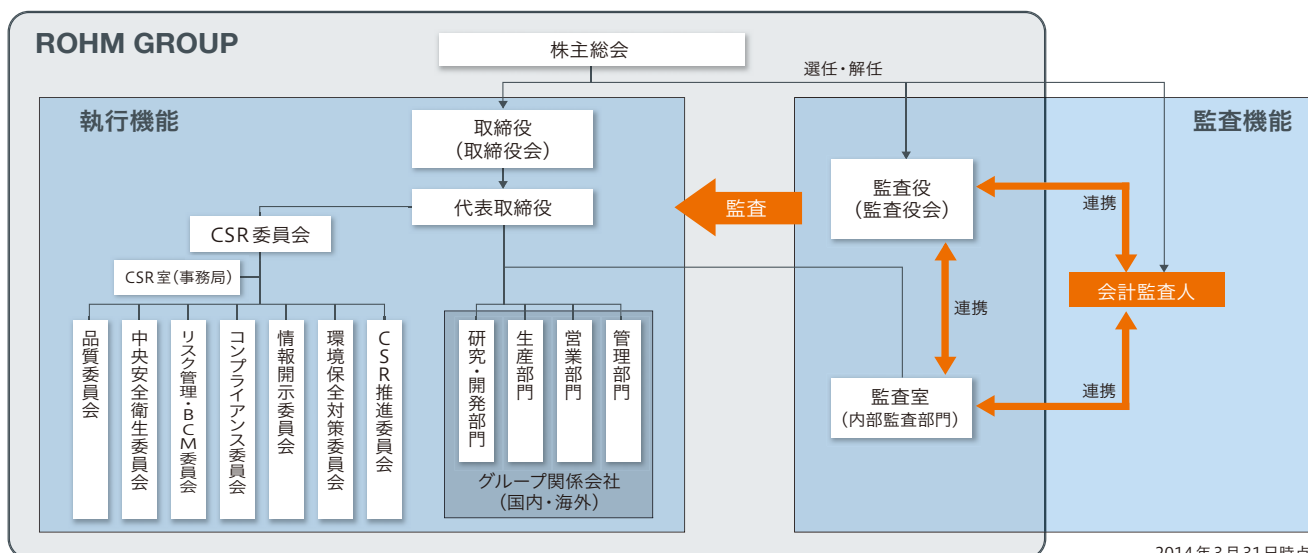
この「企業目的」「経営基本方針」などを基盤として、CSRの側面から、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献するために定めたものが「ロームグループCSR基本方針」であり、これらをより確実に実行していくうえでの倫理上の基本ルールを定めたものが「ロームグループ行動指針」です。

「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針は不変ですが、「ロームグループCSR基本方針」および「ロームグループ行動指針」は、ステークホルダーの皆様の期待にこたえていくために、変化する社会的要請や、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、ISO26000、EICC(電子業界CSRアライアンス)行動規範といった最新の国際規範などに沿って、進化していきます。

<ロームグループ行動指針>

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/rohm-group-business-conduct-guidelines>

■ コーポレート・ガバナンス体制図



CSR委員会の開催

ロームでは、CSRをサステナブル経営の軸と捉えています。長期的な展望と現下の課題、多様なステークホルダーの皆様からの要望に対して、迅速な意思決定を図ることを目的として、2011年6月からCSR室を事務局とした「CSR委

員会」を設置し定期的に開催しています。

CSR委員会では社長自らが委員長を務め、下部組織の各委員会のCSRに関する活動や計画について報告・審議することで、CSRマネジメントの強化を図っています。

CSR月間

ロームグループではCSRマネジメントに関する社内の理解を深めるため、2013年より10月を「CSR月間」と定め、CSR研修を通じた啓発活動や、CSR監査対応などの取り組みを展開しました。

「CSR月間」を通じてロームグループの全社員にCSRの重要性を理解してもらうことにより、グループ一丸となってCSRへの取り組みを強化し、社会からの期待にこたえ、世界中のステークホルダーの皆様から選ばれる企業を目指しています。

グローバルにCSRの更なる推進を目指します

ロームグループの社員が一丸となりCSRに取り組むことがCSRマネジメントの向上には不可欠だと考えています。そのため、CSRの重要性を社員が理解し、自ら行動に移すことを目指し、ロームグループ共通で「CSR月間」を設けさまざまな活動を実施しました。

今後も「CSR月間」を通じて社員一人ひとりにCSRの重要性を浸透させ、グローバルなCSR活動を推進してまいります。

ローム株式会社
CSR室 室長
村井 俊文



■ 2013年度ロームグループ「CSR月間」実施事項

- ① トップメッセージの発信
- ② CSRリーダー（部門長）の任命
- ③ CSRリーダー研修の実施
- ④ CSR意識調査の実施
- ⑤ ロームグループ行動指針の改訂とその浸透
- ⑥ 労働と倫理のマネジメントシステムの確立
- ⑦ CSR内部監査の実施
- ⑧ 海外生産会社6社におけるEICC監査の受審

■ ロームグループCSR基本方針

われわれは、「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針に則り、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献します。また、以下のとおりあらゆるステークホルダー（利害関係者）の皆様と良好な関係を構築し、社会からの信頼を得て、企業の持続的な発展を目指します。

お客様	われわれは、お客様に対しては、優れた品質、性能を有する商品と適時的確なサービスを安定的に供給することにより、お客様の満足と信頼を得ることを目指します。また、お客様への誠実な対応を心がけ、商品の安全性を最優先し、それに関する情報の適切な開示に努めています。
お取引先様	われわれは、お取引先様に対しては、公正で合理的な基準によってお取引先様を選定するとともに、お取引先様との信頼関係を大切に、対等かつ公正な取引を行い、お互いが繁栄することを目指しています。
社員	われわれは、社員に対しては、安全・快適で働きやすい職場環境を確保するとともに、人間性と個性を尊重し、公正で明るい職場をつくり、一人ひとりの働きがい高めることを目指しています。
株主・投資家の皆様	われわれは、株主・投資家の皆様に対しては、継続的な企業価値の向上を実現させ、適正な利潤を確保することにより、株主・投資家の皆様へ還元することを目指すとともに、積極的かつ幅広いIR活動を通じて説明責任を果たしています。
社会・地域の皆様	われわれは、社会・地域の皆様に対しては、各国、地域社会との交流を深め、それぞれの文化、慣習を尊重するとともに、社会貢献活動や文化・芸術活動などの実施または支援活動を行っています。また、事業活動を通じた地球環境保全活動を積極的に行っています。



CSR監査

お客様からのCSR監査

多くの電子機器メーカーは、サプライヤーがEICC（電子業界CSRアライアンス）行動規範などのCSRに関する基準を満たしているかどうかを検証するために「CSR監査」を実施しています。

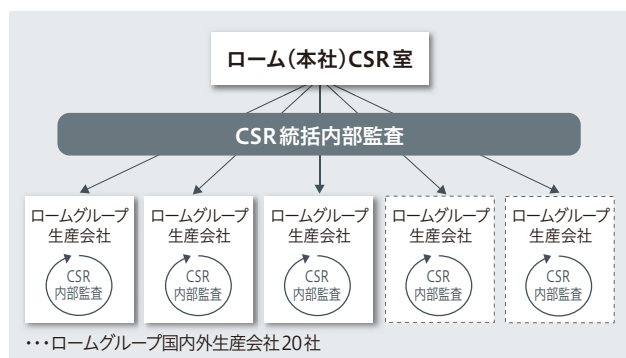
ロームグループでも、こうしたCSR監査を受審しており、お客様によるCSR監査を自らの経営品質を高めるための重要な機会と位置付けています。これらの監査でご指摘いただいた事項を着実に改善することで、CSRマネジメントの更なる基盤強化を図っています。

CSR内部監査システムの構築

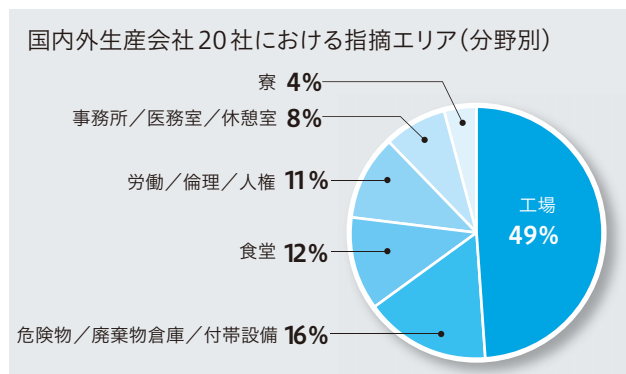
ロームグループでは、外部からの監査に加えて、2012年度からCSRに関する2つの内部監査を開始しています。

年1回実施する「CSR内部監査」は、主要な国内外生産会社20社がEICC行動規範への適合状況を自己検証する監査です。また、2年に1回、ローム本社のCSR室がこれら国内外生産会社を監査する「CSR統括内部監査」を実施し、各社のCSR内部監査実施状況やEICCへの適合状況などを検証しています。

■ CSR内部監査とCSR統括内部監査



■ 2012 - 2013 年度 CSR 統括内部監査ハイライト



海外生産会社6社にてEICC監査を受審

ロームグループではEICC行動規範への適合状況を確認するため、お客様からの「CSR監査」に加え自主的に「EICC監査」の受審を開始しました。

この監査はEICC行動規範に準拠できているかを確認されるもので、電子機器業界においては最も厳しい監査の1つになります。

2013年度はCSR監査の要請頻度が高いタイ、フィリピン、中国(天津・大連)、マレーシア、韓国にある海外生産会社6社がEICC監査を受審しました。

2014年度は国内生産会社6社の受審を予定しています。

■ EICC(電子業界CSRアライアンス)行動規範とは

主に電子機器関係のメーカーや大手サプライヤーによって構成される団体が策定した規範。「労働」「安全衛生」「環境保全」「倫理」とこれらに関連した「マネジメントシステム」からなる。

ステークホルダーの声

EICC監査 第三者監査機関

ビューローベリタスジャパン株式会社 様

2013年、ロームグループの海外生産会社6社でEICC監査を担当いたしました。

弊社では工場単位のEICC監査を担当する機会が急増していますが、グループ一斉展開というローム様の取り組みは、グローバル展開する私どもにとっても初の経験でした。世界的に先進的な試みではないでしょうか。

マネジメントシステムや運用状況を、業界共通のEICC行動規範に基づき、社員へのインタビューも含めて第三者機関が評価することは、経営品質を高める上で効果的です。

今後も公平・中立な立場で監査を通じて課題を抽出し、経営の見える化のお手伝いができれば幸いです。

ビューローベリタス
ジャパン株式会社
執行役員
システム認証事業本部
戦略事業部 部長
岡崎 久喜 様



株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

適時適切なIR活動

世界中の株主・投資家の皆様に対して、業績動向をはじめとする企業情報をタイムリーに開示するなど、IR活動を通じて積極的なコミュニケーションを図っています。

またディスクロージャーポリシーを定め、公正で正確な情報のタイムリーな提供に努めています。

ホームページでの情報開示

個人投資家の皆様にもタイムリーに情報を提供するため、ホームページに株主・投資家の皆様向けのページを設けています。

決算短信、有価証券報告書などの開示書類に加えて、アニュアルレポート、決算説明会資料、財務データの推移など幅広い投資関連情報をわかりやすく掲載しています。



<株主・投資家情報>

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>

決算説明会/インフォメーションミーティング

社長および各取締役による決算説明会を年2回開催、海外投資家訪問についても年2回実施しています。

また、証券会社主催のカンファレンスなどにも積極的に参加しています。

社会的責任投資における評価

企業の社会・環境・倫理的側面を投資の判断基準とする社会的責任投資 (SRI) において、ロームはSRI関連評価機関

から高い評価を受け、さまざまなSRIインデックスの構成銘柄に選定されています。

■ ロームが組み入れられているSRIインデックス



国際規格に準拠したマネジメントシステム

ロームグループの多くの会社では、従来から国際規格に準拠したマネジメントシステム規格の認証を取得しています。

■ マネジメントシステム構築状況

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/certification-of-quality-and-environmental>

ISO9001, ISO/TS16949

ロームグループ各社で ISO9001 の認証を取得しており、主要生産拠点は ISO/TS16949 の認証も取得。

ISO14001

ロームグループ全体で ISO14001 に準拠したマネジメントシステムを構築。

※ロームと国内関係会社、ROHM Korea Corporationは統合システムによる第三者認証を取得。海外グループ会社はISO14001規格に基づいた自己宣言による環境マネジメントシステムを構築

OHSAS18001

ロームが 2013 年 3 月に取得。
ロームグループ国内外生産拠点での取得を目指し活動を展開中。

ISO/IEC27001

ロームが 2013 年度に取得。(P.30 ご参照)



EICC 行動規範に基づく CSR 内部監査を実施しています



ドイツの生産会社ではCSR推進委員会が中心となりCSR研修や省エネ活動などさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

またCSR内部監査として、毎月EICC行動規範の項目に沿って関連資料や現場巡視などを実施し、規範への適合状況を確認することで、CSRマネジメントシステムの更なる向上に努めています。

SiCrystal AG
President/CFO
Roland Reichstein





雇用における人権・多様性の尊重

「労働における基本原則および権利」を尊重

ロームグループは、国際労働機関（ILO）による「労働における基本原則および権利」を尊重しています。

ロームグループ全体のスタンダードとしては、「人権尊重規定」のなかで「強制労働や児童労働の禁止」「機会均等と多様性の尊重、性別・年齢・国籍・人種・民族・信条・宗教・社会的身分および身体障がい等を理由とした不当な差別の禁止」「結社の自由および団体交渉の自由」を定め、社員一人ひとりの人権を尊重しています。

多様な人材の積極雇用

ロームでは、一人ひとりの人間性と個性を尊重する方針のもと、多様な人材の積極的な採用をグローバルに推進しています。

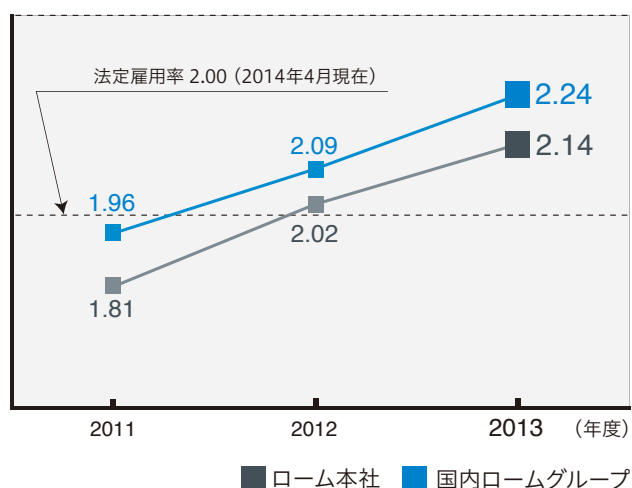
例えば、女性社員の新卒採用比率は年々上昇しており、特に営業職では採用数の半数を女性が占めるなど、女性の活躍の場が広がっています。また、外国人留学生も、毎年積極的に採用しており、ロームのグローバル化の一翼を担っています。

障がい者雇用

ロームグループでは、障がい者の方も十分力を発揮できる職場環境を目指して、障がい者雇用に取り組んでいます。

2013年度の障がい者雇用率は、ロームで2.14%、国内グループ全体では2.24%となっており、ともに法定雇用率以上の雇用率を維持しました。

■ 障がい者雇用率(%)



サプライチェーンにおける人権尊重

お取引先様に人権への配慮を要請

ロームは、取引基本契約書に「非人道的、差別的扱いの禁止」や「強制労働、児童労働の禁止」などの人権尊重条項を規定し、締結を通じてお取引先様に人権尊重配慮をお願いしています。

2013年度は「CSR調達推進説明会」の開催や「ロームグループCSR調達ガイドライン」の配布、「CSR調達 訪問確認」などを通じて、サプライチェーン全体における人権尊重の啓発活動を行いました。

今後もお取引先様と協働し、グローバルな活動を継続していきます。

人材育成

グローバルレベルでの人材交流推進により社員の成長を支援

ロームでは、20代を中心とした若手社員を海外に短期派遣する実務研修制度を2012年度に立ち上げました。

2013年度から年間2名程度を海外に派遣し、現地マネージャーのもとで実務経験を積むことで、将来海外と連携して業務を行うために必要な国際的な感覚を早期に身につけることを主旨としています。管理系職種からスタートし、今後は全社に対象を拡大していくことを検討しています。

また、海外現地法人の社員を一定期間実務研修生として受け入れる制度も活発に行っています。2013年度は研究・開発・営業職を中心に、中国・韓国・フィリピンから9名の受け入れを行いました。帰国後は現地法人の将来を担う人材に成長し、日本と現地をつなぐインターフェースとしての活躍を期待しています。

イノベーション勉強会

ロームでは、急変するビジネスモデルの変化を学び、創造的発想を生み出せる社員を育成することを目的として、定期的に「イノベーション勉強会」を開催しています。

2013年度は計5回開催し、延べ1,341名の社員が参加しました。

今後もこのような勉強会を通じて人材の育成に取り組んでいきます。



イノベーション勉強会の様子

労使関係

ロームグループでは各国の法令などに基づき、社員の労働条件や福利厚生などについて定期的に労働組合や従業員代表と話し合い、相互理解を深めながら事業を進めています。

従業員組合共催イベント“秋フェス”開催

普段の運動不足の解消を目的として、横浜の拠点の社員とご家族219名に参加いただき、スポーツイベントを開催しました。

横浜国際プールのメインアリーナを貸し切り、大縄跳びやリレーなどチーム対抗競技を行いました。

「会社の行事には初参加」という方も多く、幅広い年齢層の方が参加される盛大なイベントとなりました。



ラピセミコンダクタ株式会社
秋フェス実行委員会
伴 将史



労働安全衛生

ローム本社19年間休業災害ゼロを達成

ロームでは、中央安全衛生委員会のもと、労働災害発生件数ゼロを目標として、「リスクアセスメント」や「社内パトロール」を実施しています。

その結果、2013年度まで19年間連続で休業災害ゼロを達成しています。

国内外の生産会社においても、労働災害発生件数ゼロを目標として、各社ごとに安全衛生管理に取り組んでいます。

また、年1回「法令遵守チェックシート」を用いて各社の安全衛生関連法などに関する理解度・遵守状況を確認しています。

■ 度数率（ロームグループ）



$$\text{度数率（災害発生の頻度）} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延実労働時間}} \times 1,000,000$$

■ 強度率（ロームグループ）



$$\text{強度率（災害の重さの程度）} = \frac{\text{延労働損失日数}}{\text{延実労働時間}} \times 1,000$$

■ 参考…電子部品・デバイス・電子回路製造業平均値 度数率：0.34 / 強度率：0.02
出典：厚生労働省 平成25年労働災害動向調査
(事業所調査(事業所規模100人以上)および総合工事業調査)結果の概況より



社長と社員との対話を積極的に実施しています



中国・天津の生産会社では2009年より月に一度、従業員代表と社長が話し合う機会を設けています。

対話では、社員が現場で感じているさまざまな課題に社長が直接耳を傾け、解決のためのアイデアを出し合います。

この取り組みは労使間の相互理解を促進するとともに、社員のモチベーションアップにも繋がっています。

ROHM
Semiconductor
(China) Co., Ltd.
ダイオード製造部
馮 艶





環境目標

環境方針と重点項目

ロームグループは、環境方針として、「われわれは、つねに地球環境保全に配慮し、人類の健康的な存続と企業の恒久的な繁栄に貢献するものとする。」を掲げ、年度ごとに環境目標を定めたうえで、環境保全活動を行っています。

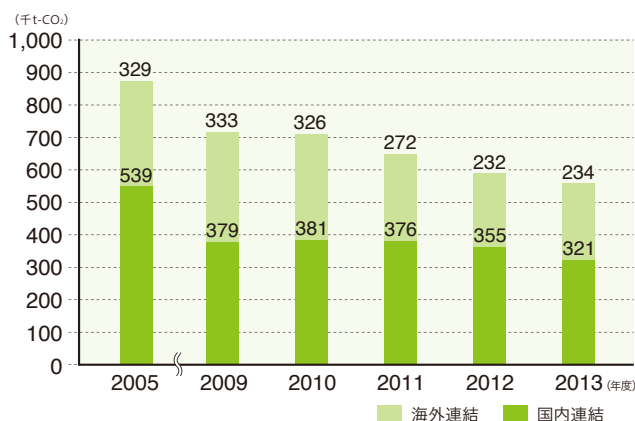
重点項目

- ① 省エネルギーをすべての企業活動で創意工夫し徹底する。
- ② 環境配慮型製品を開発し、製品のライフサイクルを通して環境負荷の最少化を追求する。
- ③ 材料・副資材の調達や製品の購入は、より環境負荷の少ないものを優先する。
- ④ 国内外の環境法規制や地域協定を遵守する。
- ⑤ 生活環境や地球環境に配慮する社員の育成と関係者の啓発に努める。
- ⑥ 地球環境への貢献や環境情報の適切な開示により、社会との健全な連携を図る。

環境負荷低減活動

CO₂およびその他温室効果ガス排出量削減(1) CO₂排出量

ロームグループでは、省エネルギー対策を計画的に推進していくため、個々の生産設備・付帯設備の使用電力、オフィスのエネルギーなどの見える化を進め、ムダなエネルギーを削減し、その対策内容を水平展開しています。

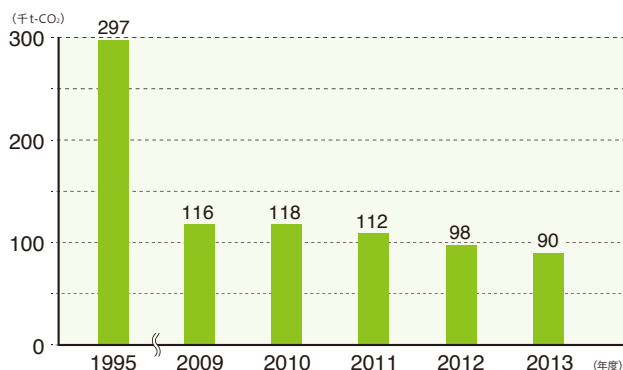
ロームグループのCO₂排出量

(2) 温室効果ガス排出量削減

PFC(パーフルオロカーボン)ガス類はCO₂を大幅に上回る温室効果があるため、ロームグループでもPFCガス類排出量削減に積極的に取り組んでいます。

グループ全体に除害設備の設置を進め、2008年に電気・電子業界の目標を2年前倒しで達成した後も、排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

ロームグループのPFCガス類排出量



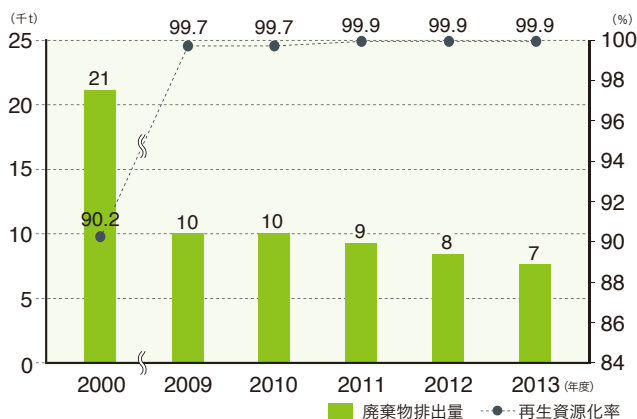
廃棄物排出量の削減と再生資源化の推進

ロームグループでは廃棄物排出量の低減策として、投入する材料・副資材の適正化と歩留り向上への取り組み、発生した不要物の分別の徹底による有価物化を進めています。

また、ロームグループでは廃棄物の再生資源化率99%以上をゼロエミッションと定め、2004年に国内グループ連結でゼロエミッションを達成後、真の100%を目指し継続中です。(2013年度99.98%)

2013年度には、ロームの廃棄物の排出削減および環境保全への貢献を認められ、京都府知事より「環境保全功労者<団体・トップランナー部門>」として表彰されました。

ロームグループ廃棄物排出量と再生資源化率(国内拠点)



製品含有化学物質管理

RoHS指令(特定有害物質使用制限指令)、REACH規則(化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則)などの環境負荷物質管理に関わる法規制が施行され、より地球環境に配慮した製品づくりが必要となっています。

ロームでは、グリーン調達を推進し、調達部品・材料に含有する化学物質の調査精度向上を進めるとともに、社内の化学物質管理体制に重点を置き、禁止物質が「入らない」「使用されない」「出荷されない」ための管理システムを構築し、お客様に安心して使っていただける製品を供給しています。



環境学習授業

小学生向け環境学習授業

ロームは、2010年度から京都市内の小学生を対象とした環境学習授業を実施しています。

学校での出前授業では、地球温暖化の仕組みおよび家庭や学校でできる省エネに関する講義に加え、ローム製のLEDを使用した実験を提供しています。その中で手動発電機を使ってLEDと豆電球との消費電力を比較するなど、省エネ効果を体感してもらっています。

今後はこの内容をもとに海外生産拠点へ展開する予定です。



ローム製のLEDを使用した実験キット

省エネの普及に向けて

ローム京都駅前ビルにおける取り組み

半導体工場で培ったノウハウをもとに、省エネ3原則(自然エネルギー活用・負荷抑制・高効率機器採用)によって省エネ化されたローム京都駅前ビルでは、2012年の省エネ大賞資源エネルギー庁長官賞(省エネ事例部門)受賞以来、各方面からの取材、講演・研修および見学依頼などに応じ、省エネルギー事例の普及に努めてきました。

2013年はJICA(国際協力機構)関連機関からの依頼により、南米、アフリカ、ヨーロッパの省エネ担当者を主体とした省エネ研修会を実施しました。

また、世界的に有名な省エネルギー学者であるエイモリー・ロビンス博士が見学のため来社されるなど、国内外に向けて日本のオフィスビルの省エネ事例として広く発信しています。



省エネ研修会の様子(屋上緑化の見学) ローム京都駅前ビル



地域企業へ環境技術支援を実施しています



韓国の生産会社は、地域環境庁より環境優良企業として2002年より認定されています。

認定を受け、地元企業の環境活動の向上のため、さまざまな活動を実施しています。

自社の持つ環境技術を活用し地域環境庁と協力して地元企業を訪問し、環境関連に関する法令の説明や環境設備の運用・点検などの管理方法を支援しています。

今後も、このような活動を通じて地域社会に貢献していきたいと考えています。

ROHM Korea Corporation
総務部 課長
李 朝淵





コンプライアンス

体制・行動指針

ロームでは、企業として求められる適切なコンプライアンス体制を確立・維持し、また啓発・推進するため、コンプライアンス委員会を設置し、グループにおけるコンプライアンス違反の防止を図っています。

また、日々の事業活動のなかで遵守すべき倫理上の基本的なルールを明らかにした「ロームグループ行動指針」を7ヶ国語に翻訳し、全社に展開するとともに、研修会や「リーガルeラーニング」などの社内教育・啓発活動を通じて、コンプライアンス意識の浸透および向上を図っています。

2013年度は、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、EICC（電子業界CSRアライアンス）行動規範の内容を踏まえて行動指針の見直しを行い、改訂版を発行するとともに10月の「CSR月間」のなかで社員への教育・啓発を実施しました。



ロームグループ行動指針

コンプライアンス・ホットライン

ロームでは、コンプライアンス・ホットラインを設置し、非正規社員を含む全社員から国内グループにおけるコンプライアンス違反に関する相談・通報を受け付け、違反の早期把握と適切な対応に努めています。

また、海外関係会社でも同様のホットラインを設置しています。

さらに、ロームと海外主要生産会社では2011年度よりお取引先様向けのコンプライアンス・ホットラインを設置するとともに、2013年度には国内主要生産会社にも同様のホットラインを設置しました。

腐敗防止（贈収賄防止）の徹底

ロームグループでは、「贈収賄防止管理規定」を制定し、国内外の全関係会社において、腐敗防止の徹底に努めています。

また、ロームの階層別研修では贈収賄防止に関する説明を実施するとともに、2013年度はマネジメント層を対象として、外部講師を招聘し、贈収賄防止の社内セミナーを実施しました。

社内教育・啓発活動の強化

ロームでは、新入社員から主任、係長、管理職クラスを対

象とした階層ごとのコンプライアンス研修のほか、個人情報保護法、独占禁止法、下請法、金融商品取引法（インサイダー取引防止）、PL法などの個別テーマに関する研修、社員向け「リーガルeラーニング」の実施など、社内で継続的にコンプライアンス教育・啓発活動を実施しています。

また、社員からのコンプライアンス教育に関するニーズに対応し、国内においては「法務ガイドブック」を、海外においては「Compliance Training Program」を作成し、教育に活用しています。

また、2013年度には「法務ガイドブック」を改定し、ロームおよびロームグループ国内生産会社において、リーダークラスを対象とした研修会を開催しました。



法務ガイドブック

バリューチェーンにおける社会的責任の推進

サプライチェーン全体でのCSRの普及・浸透

ロームグループでは、EICC行動規範の遵守をはじめとするCSR条項を盛り込んだ「取引基本契約書」の締結および、お取引先様ご自身によるCSR管理状況の自己診断をお取引先様のご理解を得ながら進めています。

CSRの推進にあたっては、事業プロセスに関わるすべてのお取引先様を含めたサプライチェーン全体で取り組むことが社会的要請となっています。

そこでロームでは「ロームグループCSR調達ガイドライン」を発刊し、2013年6月にロームのお取引先様99社、161名をローム本社にお招きし、「CSR調達推進説明会」を開催、ロームグループのCSRの考え方についてご理解を深めていただきました。

なお、海外生産拠点でも同様の説明会を開催し、CSRの考え方や施策の共有化を図り、相互協力しながらサプライチェーン全体へのCSR向上に努めています。

また、説明会にお招きしたお取引先様をはじめ、国内外すべてのお取引先様に「CSR調達セルフアセスメントツール」をお配りし、CSRへの取り組み状況を自己評価していただいています。



ローム本社CSR調達推進説明会にて、社長の挨拶

さらにお取引先様を直接訪問し、対話をしながら相互にCSRパートナーシップを深める「CSR調達訪問確認」を新たにスタートさせました。

2013年度は国内お取引先様3社においてCSR調達訪問確認を行い、ロームのCSRについての考え方を紹介しながら相互理解を深めました。

2014年度はさらに海外のお取引先様に対象を広げて実施していきます。



国内におけるCSR調達訪問確認の様子

紛争鉱物の不使用に向けた取り組み

2010年7月に米国金融改革法が成立し、その後2012年8月に米国証券取引委員会 (SEC) が最終的に規則として採択したことから、米国証券取引委員会に上場している企業は、コンゴ民主共和国およびその近隣周辺地域で産出され武装勢力や反政府組織の資金源となっている紛争鉱物使用状況に関する調査をサプライチェーンに対して実施しています。

ロームはそのサプライチェーンとして今後も、お客様に安心してローム製品を使用していただけよう紛争鉱物不使用への取り組みを一層進めていきます。

リスクマネジメント・BCM

リスクマネジメント・BCM体制

ロームでは、ロームグループにおけるリスク発生を最小限にとどめるとともに、災害などが発生した場合において円滑な事業継続または復旧を図るため、リスク管理・BCM(事業継続マネジメント)委員会を組織しています。

2011年度に発生したタイの洪水の際には、速やかにBCM対策本部を本社に立ち上げ、現地対策本部と連携し、迅速な復旧に努めました。

2013年度はリスク評価の方法をこれまでの3段階から、発生頻度と影響額についてそれぞれ10段階で評価する方法に変更し、より細分化したリスクマップを作成することでグループ全体のリスク管理を強化しています。

サプライチェーンBCPの推進

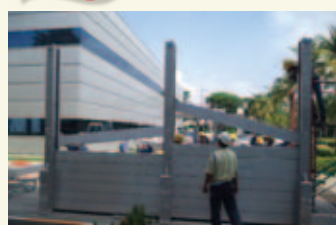
ロームグループでは、「社会の持続可能な発展に貢献する」ために、災害や不測の事態に強いBCP(事業継続計画)を構築することが重要な課題と考えています。

お取引先様に対しては「お取引先様による製品代替生産方法」「材料としてなくてはならないクリティカル原材料の調達方法の明確化」「安全在庫の確保」などに関する調査を継続して実施しています。

また、CSR調達セルフアセスメントツール、CSR調達訪問確認などを通してロームグループのサプライチェーンBCPに関する考え方の普及・浸透に今後も努めていきます。



災害を想定したBCP対策訓練を実施しています



2011年、タイの生産会社は大洪水により甚大な被害を受け、生産停止を余儀なくされました。

お客様やグループ内からの強力なご支援により早期復旧を果たすことができましたが、この苦い経験を教訓として、社内にBCP委員会を常設し、災害に強い工場づくりを進めています。

どんな災害が発生しても製品の供給でお客様にご迷惑をおかけしないよう、非常事態時の行動計画の策定や見直し、対応訓練など、年間を通して継続的な活動を行っています。

ROHM Integrated Systems
(Thailand) Co., Ltd.
MCR製造部 副部長
BCP委員会委員長
Tanasit Janplook





品質の確保

品質第一の追求

ロームグループでは、新製品の開発・設計、工程設計から生産システムの開発、原材料の購入、そしてすべての生産プロセスにおいて細心の注意を払い、かつ営業をはじめ管理部門に至るまで、全社員が企業目的にある「品質第一」を追求し、常に高い品質を意識し、お客様に満足していただくための活動に日々取り組み、努力しています。

こうした活動を継続するため、品質保証体制の強化・運用に努め、品質管理・品質保証に関して全社員に徹底した教育を実施しています。

徹底した品質教育

ロームグループでは、開発・営業・生産・管理部門がお客様支援のあらゆる面で「品質第一」を徹底できるように、品質に関する社員教育に力を注いでいます。新入社員を対象とした品質管理の基本手法に関する教育をはじめとして、技術系社員に対する信頼性技術などの教育、職位ごとの品質管理に関する階層別教育など、さまざまな教育を実施しています。

各生産拠点においても、品質に関する教育を重点的に行っており、ライセンス(認定)制度により認定された作業員・保全者のみが作業をしています。



中国・大連の工場における教育の様子

品質保証体制の更なる強化

ロームでは、生産部門内に製品群(LSI、トランジスタ、抵抗器など)ごとの製造部を置き、新製品の開発・設計から日常の品質、コスト、納期についての管理業務までを担っています。各製造部内にはQC(品質管理)部門があり、各製品の環境・品質保証全般、および国際規格ISO9001に準拠した品質マネジメントシステムの運用を担当しています。

また、社長直轄組織として品質保証部をおき、製造部や本部の枠を超えた全社にかかわる品質マネジメントシステムの構築、情報展開、お客様の声のフィードバックおよび標準化、製造部QC部門の監視業務などにあたっています。

加えて、品質保証活動のより一層のレベルアップを目指し、品質保証部内に各製品群に対応した品質保証グループ(品質保証室)を設置し、よりきめ細かなお客様への対応と

お客様の視点に立った設計品質の更なる向上を図るとともに、タイムリーな情報を社内展開することで、お客様により満足していただける体制の強化を図っています。

品質・信頼のための解析力の向上

ロームグループでは、最新鋭の分析・解析装置を駆使し、品質・信頼性の保証のために日々、研究・開発・評価に取り組んでいます。

ロームは、新製品の研究から不具合品の解析まで、あらゆる目的に迅速に対応できるよう、さまざまな分析・解析装置を完備しています。

また、国内外のQAセンターにも同様の設備を置いており、グローバル体制で取り組みを進めています。



ローム解析センターの様子

スピーディーなお客様サポートに努めています

ロームグループでは世界各地に販売拠点を設け、お客様に密着した対応ができるよう努めています。

お客様からより一層信頼していただくためには、スピーディーなサポートが必須です。シンガポールの販売拠点でも、最高レベルでの品質サポートを行えるよう、お客様の声を迅速にQC部門などの関連部門へフィードバックし、製造と販売が一体となり日々活動しています。

今後も全てのお客様に満足していただけるよう、タイムリーできめ細かなお客様対応を行ってまいります。

ROHM Semiconductor
Singapore Pte.Ltd.
Business Development &
Technical Marketing Div.
(ASEAN+India region).
ゼネラルマネージャー
Niranjan G.



デザイン/QAセンター

デザインセンター

ロームグループでは、製品を開発・設計するにあたって、常にお客様の要望をしっかりと把握し、要望にあった製品を迅速に提供することを大切にしています。

そのために、世界各地に開発拠点となるデザインセンターを設置し、お客様に密着したグローバル体制を敷いています。また、開発・設計者も現地化することで、より現地のニーズに合わせた新製品を生み出す「真のグローバル化」を推し進めています。

QAセンター

ロームグループでは、常にお客様に最も近い所で品質対応を行えるよう国内・海外10カ所に「QA(Quality Assurance:品質保証)センター」と名づけた各種解析装置を備えた製品解析センターを設置しています。

技術に精通したスタッフが地域に密着した対応を行うとともに、このQAセンターで過去の品質問題をあらゆる角度から細かく分析することで問題の真因を明らかにし、二度と同じ品質問題を起こさないように対策を講じています。

さらに、これらの真因対策を4M[MAN(人)、MACHINE(設備)、MATERIAL(材料)、METHOD(方法)]の観点から分析し、予防処置を含めた継続的な改善活動を進めています。

秘密情報保護

情報セキュリティ意識の向上

ロームでは、お客様の個人情報に対して、「個人情報の保護に関する法律」および「個人情報の保護に関する経済産業省のガイドライン」などに基づき、お客様の個人情報の利用目的の明確化、適正な取得、安全かつ厳正な管理に努めています。

さらに、契約に基づいて入手したお客様の秘密情報を適切に保護するために情報セキュリティポリシーを策定し、セキュリティ事故防止に対する仕組みづくりや、社員に対する意識啓発に取り組んでいます。

情報セキュリティ教育として、新入社員研修ならびに階層別研修に加え、全社員を対象としたオンラインでの情報セキュリティトレーニングを継続的に実施しており、受講状況や理解度を可視化し、受講者に対して適切にフィードバックすることで、全社員の情報セキュリティ意識向上を効果的に進めています。

情報セキュリティマネジメントシステム認証(ISO/IEC27001)取得

2013年7月19日、ローム戦略情報システム部が情報セキュリティマネジメントシステムの認証である、ISO/IEC 27001を取得しました。

ロームでは、セキュリティマネジメントシステムを確立しており、今後もセキュリティレベルの継続的な向上を図ります。これにより、ステークホルダーの皆様にとってのビジネスリスクを低減していきます。



ローム品質委員会を発足させました



ロームでは、よりレベルの高い品質改善活動で世界をリードする「品質」を実現するため、お客様視点に立ち全社組織を横断する形で品質委員会を発足させました。

“お客様視点の品質”向上に取り組み、お客様に満足いただける高品質な製品を、そしてより高い品質保証体制の実現を図るため、各種専門部会を設置し活動を開始しています。

これにより、これまで以上にお客様に満足していただける製品・サービスの提供を全社一丸となって推進し、ステークホルダーの皆様の信頼を獲得し、社会への貢献に努めてまいります。

ローム株式会社 品質保証部 部長
品質委員会 副委員長

一瀬 義隆





社会貢献活動

ロームグループでは「教育」、「文化・交流」、「環境」の3つの分野を中心に社会貢献活動を展開することで、社会の持続的な発展に貢献しています。



教育

ロームの技術を活かし、豊かな人間性と知性を備えた次世代を育成する。



文化・交流

社内外で文化的交流を積極的に行うことにより、地域社会と社内の活性化に努める。



環境

企業市民として、環境の保全を心がけ、自主的かつ積極的に取り組める活動を行う。

災害被災地復興支援活動

「ありがとう本」活動

2012年12月より、公益財団法人信頼資本財団の「ありがとう本」プロジェクトに賛同し、ロームグループとして活動に参加しています。「ありがとう本」は、読まなくなった本、聴かなくなったCDなどを寄付することで社会貢献できるプログラムです。

2014年3月時点で国内ロームグループで合計1万点以上の寄付品が集まり、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援の輪が広がっています。



ありがとう本

ありがとう本ロゴマーク



ロームありがとう本キャンペーン

フィリピン台風30号被災地支援活動

2013年11月、フィリピンを通過した台風30号について、幸いにもロームグループの拠点は被害を受けませんでしたが、フィリピン中部では深刻な被害となりました。

ロームグループからはフィリピン赤十字社に対し1,000万円の義援金を寄付するとともに、フィリピンにある4拠点は水、食糧や衣料などの救援物資の寄贈を行いました。



フィリピン赤十字社へ義援金を寄付

被災地支援活動を通じて復興を祈っています

フィリピンの生産拠点では、全社を挙げて台風30号の被災地に対し支援活動を実施しました。

社員2,653名から集まった767,950ペソ(約180万円)を地元基金を通じて寄付するとともに、食糧や衣類などの救援物資を被災者へ送付することで被災地支援に役立てていただきました。

今後も継続して支援することで一刻も早い復興を願っています。

ROHM Electronics
Philippines, Inc.
人事部 セクションチーフ

Antonio
P. Parin, Jr.





国内外の大学との産学共同研究

研究機関、大学、異分野企業と協力

ロームは、文化や社会の進歩向上に貢献できる技術を開発するためには、研究機関や大学、異分野企業と良き関係を築き、協力して取り組む必要があると考えています。

特に産学連携を推進するため、地元京都においては立命館大学、同志社大学、京都大学に「ローム記念館」を寄贈し、包括的な産学共同研究の推進を図っています。

中国・清華大学と 包括的産学連携による製品開発を推進

ロームグループでは、アメリカや中国など海外でも産学連携を積極的に進め、先端知の研究や各地のニーズにこたえる製品の開発に取り組んでいます。

2006年には中国の清華大学と包括的産学連携契約を締結。2011年4月には清華大学の創立100周年を機会に、クリーンルームや国際会議場を有する「清華ローム電子工程院」を寄贈・開館しました。

本館7階に共同研究体制の基盤となる「清華ローム共同研究センター」を設立し、従来のインターンシップ受け入れだけでなく、ローム社員が駐在することによって人的交流・異文化理解に基づく技術開発と社会貢献を活性化しています。

現在、本センター組織を基軸に、「光デバイス」、「通信・放送」、「バイオチップ」、「POCT (Point of Care Testing)」、「パワーデバイス&システム」、「センサ&ネットワーク技術利用による社会インフラモニタリング」などの分野において数多くの共同研究プロジェクトが開始され、今後一層の交流成果が期待されています。



清華ローム電子工程院

未来のエンジニアへ向けた活動

世界の高校生が集うJSSFへの参画

Japan Super Science Fair (JSSF) は、立命館高等学校が主催する、地球温暖化や食糧問題など現在の社会が抱えるさまざまな問題を解決するために、世界中から科学を学ぶ高校生が集まり、考えや知識、夢を語り合うフェアです。

ロームは、高校生に対し自社技術についての講座を開催するとともに、ローム本社での企業見学の受け入れを行い、次世代のエンジニアを目指す高校生たちへエールを送りました。



企業見学の様子

NHK大学ロボコン・ABU(アジア・太平洋放送連合)ロボコンへの協賛

ロームでは若きエンジニアを支援するために、さまざまな活動に協賛しています。NHK大学ロボコン・ABU(アジア・太平洋放送連合)ロボコンもそのひとつです。

2013年8月に開催された「ABUアジア・太平洋ロボコン2013ベトナム・ダナン大会」では18カ国の代表が自作の手動・自動ロボット2台を駆使し、対戦形式で課題の達成スピードを競いました。



ABUアジア・太平洋ロボコン2013ベトナム・ダナン大会の様子



文化・交流

音楽文化への貢献

若き音楽家の成長を支援

ロームでは、1965年より幅広い音楽支援活動を展開しています。2000年からは、「若い音楽家を育てたい」という小澤征爾氏の熱い思いに賛同して開始した「小澤征爾音楽塾」公演への協賛も続けており、2013年度は「オペラ・プロジェクトⅫ」を支援しました。



「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅫ」公演（撮影：大窪道治）



地域への文化支援活動

ロームシアター京都

2013年7月、京都市とロームは2016年1月に生まれ変わる京都会館のネーミングライツ名称を「ロームシアター京都」に決定しました。現在、再整備中の京都会館はこれまで50年間にわたり京都の文化の殿堂として京都市民の皆様へ親しまれてきた貴重な文化財産です。

ロームは今後の継続的な文化支援活動として「ロームシアター京都」が社会・地域の皆様に愛され、文化の殿堂として日本を代表する施設となることを願っています。



ロームシアター京都完成予想図
(2016年1月開館予定)

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

継続的に音楽文化の普及、発展に寄与することを目的に、1991年に「公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション」を設立しました。

2013年度は63名の奨学生を支援し、新たに国内外の音楽学校で学んだ奨学生によるコンサートを開催しました。これまでの奨学生は累計382名に上ります。

また、国際交流と若手音楽家育成を目的とした「京都・国際音楽学生フェスティバル」の開催や、プロの音楽家を育成するための「音楽セミナー」、音楽に関する公演・研究への助成なども行っています。

(2013年度事業費：約6億6,664万円)

ホームページ(<http://www.rohm.co.jp/rmf>)やブログ(<http://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>)でも支援する若き音楽家の様子や事業内容などを紹介しています。



京都・国際音楽学生フェスティバル2013
(撮影：佐々木卓男)



音楽セミナー2013(指揮者クラス)
(撮影：佐々木卓男)

クラシック音楽の普及に向けて

社員向けセミナー

「ローム楽しくクラシックシリーズ」

2014年3月、ロームにて社員を対象としたクラシック音楽セミナー「ローム楽しくクラシックシリーズ」を開催しました。このセミナーはクラシック音楽に気軽に触れ、その素晴らしさを実感してもらうことを目的に、京都市交響楽団と協同で開催したものです。

今後も、継続的に実施していく予定です。



ローム楽しくクラシックシリーズの様子

ステークホルダーの声

京都市交響楽団 楽団員/ローム ミュージック ファンデーション 1992年度奨学生

ローム ミュージック ファンデーション・1992年度奨学生として、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルト音楽大学に留学させていただきました。留学中はとても充実した学生生活を送ることができたことに感謝いたします。帰国後は京都市交響楽団に入団し、京響の活動を通して京都の音楽文化の発展に寄与できることはこのうえない喜びです。

また2014年3月には「ローム楽しくクラシックシリーズ」にて演奏者として参加し、ローム社員の皆様にクラシック音楽に対しますます興味を持っていただくきっかけ作りをさせていただきました。

今後もクラシック音楽の素晴らしさをたくさんの方々に伝えたいと思います。

京都市交響楽団楽団員
首席ファゴット奏者
中野 陽一朗 様





環境

製品を通じた社会貢献

京都・花灯路へLED照明を寄付

京都・花灯路では、露地行灯と道標行灯のすべてにロームの寄贈したLED照明が利用されています。

全国的に節電が求められるなか、開催にあたって省エネや環境配慮が課題となっていました。ロームの高効率LED照明を使用することにより、行灯の消費電力は約1/6に削減されました。

毎年3月・12月の2回、ロームのLED照明が京都の夜を彩っています。



12月／京都・嵐山花灯路(落柿舎前)



3月／京都・東山花灯路(産寧坂)

地域環境への貢献に向けた活動

地域の企業・団体と共同で植林活動を実施

中国・大連の生産会社では、地域企業・団体と協同で植林活動を行いました。200名以上のボランティアが参加し、300本以上の木を植樹しました。

参加者一人ひとりが地球温暖化防止や環境保全対策を考えるよい機会となりました。



植林活動の様子



CSR推進委員会を通じて地域に貢献しています



マレーシアの生産会社ではCSR推進委員会が中心となり、年間計画を立て積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。2013年5月には地域の自治体と協力し、70名以上の社員とともにビーチクリーンアップ活動を実施しました。

この活動は企業や社員としてどのように地域環境に貢献できるか、CSR推進委員会にて審議したうえで実施しました。

これからもこのような活動を通じて、地域環境の更なる貢献に努めたいと思います。

ROHM-Wako Electronics Malaysia Sdn. Bhd.
ダイオード製造部
CSR推進委員会委員長
Mohd Fadhly Abdullah



CSRの目標・計画と実績

ロームグループのCSR重点課題

① 高品質な製品の安定供給 ② 革新的な製品による社会的課題の解決 ③ グローバルな人材育成

ISO26000 中核主題		取り組みテーマ	2013年度目標・計画
組織 統治	CSR マネジメント 体制の 維持・向上	CSR 体制の強化	・10月をCSR月間とし、ロームグループ全社一斉CSR内部監査を実施する。 ・CSR統括内部監査をロームグループ(2012年度未実施の国内4社、海外5社)において実施する。 ・CSR統括内部監査を継続実施するとともに、ロームグループの共通課題を分析し、対策を講じる。 ・お取引先様、業務委託先様に対し、EICC基準に基づくCSR監査を実施する。
		国際的なイニシアティブ・ガイドラインに基づいたCSR活動の推進	・2012年度にCSR教育を実施していない拠点で実施する。 ・2012年度にCSReラーニングを実施していない拠点で実施する。
		安定供給のための事業継続マネジメント(BCM)体制の維持・向上 ①	・事業継続計画(BCP)の見直しを行い、教育訓練によって浸透を図る。
		品質マネジメントシステムの維持・向上 ①	・ISO9001マネジメントシステムを継続して維持・向上する。 ※車載向け製品はISO/TS16949マネジメントシステムも維持・向上する。
		環境マネジメントシステムの維持・向上	・ISO14001マネジメントシステムを継続して維持・向上する。
		労働安全衛生マネジメントシステムの維持・向上	・ロームグループ海外生産会社において、認証取得を進める。
		ステークホルダーダイアログの実施	・政府機関/NPO/NGOとステークホルダーダイアログを開催し、常に社会課題を解決できる製品開発の促進を図る。
人 権 労働 慣行	人権の尊重 ダイバーシティの推進／働きやすい職場環境の整備 グローバルビジネスを担う人材の育成 ③ 安全で働きやすい職場環境の構築	人権の尊重	・グローバルで取引基本契約書の100%締結。
		ダイバーシティの推進／働きやすい職場環境の整備	・公正、透明な人事、給与制度を導入する。 ・グローバル人材を確保するため、インターンシップを拡充する。 ・社員の働きに報いる表彰制度を整備する。 ・勤務時間の柔軟化を図る制度を新規導入する。
		グローバルビジネスを担う人材の育成 ③	・次世代リーダー研修を新規導入する。 ・2012年度導入の若手海外研修制度を拡大する。 ・グローバル研修、語学学習支援インフラを強化する。 ・ロームグループ全体の標準化を推進する。
		安全で働きやすい職場環境の構築	・労働災害発生件数ゼロを目指し、安全衛生管理を徹底する。(労働災害の定義:休業1日以上)の災害)
環 境	「2020年度 に向けた 中期目標」 を軸とした 施策の展開	拠点におけるCO ₂ 対策	・CO₂排出量を、2012年度実績より1%削減する。 ・CO₂排出量原単位を、2012年度実績より1%削減する。 ・温室効果ガス(PFCs、SF₆など)排出量を、2012年度実績より1%削減する。
		バリューチェーンを通じたCO ₂ 対策 ②	・GHGプロトコルのスコープ1,2に対応し、バリューチェーンCO₂を把握するための仕組みを構築する。 ・GHGプロトコルのスコープ3に準じた温室効果ガス排出量算出を検討し、運用モデルを策定する。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合を60%にする。
		環境汚染物質の削減	・PRTR対象物質取扱量原単位を、2012年度実績より1%削減する。 ・VOC排出量を、2012年度実績より1%削減する。
		資源の有効活用	・海外連結で廃棄物排出量原単位を、2012年度実績より1%削減する。 ・水の投入量を、2012年度実績より1%削減する。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位を2012年度実績より1%削減する。
		環境コミュニケーションの推進	・関係部門と連携し、小学生向け環境学習授業の更なる活性化を図る。
		グリーン調達ガイドラインに則った化学物質管理の徹底	・ガイドライン指定物質の不使用／使用量遵守を継続する。
公正な 事業慣行	「ローム グループ 行動指針」 に基づいた 公正な事業 活動を推進	コンプライアンス体制の強化	・階層別コンプライアンス教育を継続実施する。 ・社員向けにコンプライアンスや法令などを解説した「法務ガイドブック」を活用し、ロームおよびロームグループ国内生産会社で教育・啓発活動を展開する。 ・社員向け「リーガルラーニング」を継続展開する。 ・国連グローバル・コンパクト、ISO26000を踏まえ、行動指針の改訂を行う。 ・CSR月間の中でロームグループ海外関係会社を含め全社で教育・啓発活動を継続して展開する。 ・ロームグループ海外関係会社でのコンプライアンス教育ツールを使用した教育・啓発活動を実施する。
		公正な競争・取引	・CSR調達ガイドライン配布およびセルフアセスメントツールの内容充実と定着を図る。 ・上記評価結果に応じてCSR監査を開始する。
		汚職・贈収賄の防止	・階層別研修などでの贈収賄防止に関する教育を継続実施する。
		情報の保護・適切な管理	・セキュリティレベルの継続的な向上に向け、ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証取得を行う。
		CSR調達に関する方針の浸透と徹底	・CSR調達ガイドライン配布およびセルフアセスメントツールの内容充実と定着。 ・お取引先様とCSR調達に関して相互理解を深める諸活動の実施。
消費者 課題 (お客様への 対応)	製品品質の確保 ① お客様から求められるニーズを的確に把握し、 世界をリードする製品を開発 ②	製品品質の確保 ①	・新製品の設計品質の更なる向上と品質問題の徹底した分析、継続的な改善活動を実施する。
		お客様から求められるニーズを的確に把握し、世界をリードする製品を開発 ②	・ロームの全部門長に対し、Creating Shared Value(CSV)の勉強会を実施する。
コミュニティ への参画および 発展	良き企業市民 として社会の 発展や健全化 に貢献	音楽文化の普及・発展への貢献	・音楽文化に関する支援を継続する。
		広く社会のニーズに対応した適切な寄付や賛助活動	・社会のニーズを捉えた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。
		地域社会からの要請に応じた活動	・継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 ・社員参加型のモノづくり授業を実施する。 ・東日本大震災の復興支援を継続実施する。

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのために体制の強化を進めるとともに、ISO26000に準拠し、バリューチェーンを見渡して重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しています。

2013年度実績	評価	2014年度目標・計画
・10月をCSR月間とし活動を開始。 ・CSR月間にあわせロームグループ全社一斉CSR内部監査を実施。 ・CSR統括内部監査を継続実施し、国内外すべての生産会社20社において完了。 ・海外生産会社6社にてEICC監査を受審。 ・国内お取引先様3社に対し、EICC基準に基づくCSR調達訪問確認を実施。	★★★★	・国内生産会社6社にてEICC監査を受審する。 ・海外お取引先様に対し、EICC基準に基づくCSR調達訪問確認を実施する。
・国内外の営業・開発拠点にてCSR研修を実施。(16カ国453名) ・CSRリーダー研修(143名)、階層別CSR研修(301名)、職場CSR研修(156名)、関係会社CSR研修(224名)実施。 ・2013年度、ロームグループCSR意識調査を通じて社員CSR啓発を実施。	★★★★	・EICC監査対応研修を実施する。 ・2013年度にCSR研修を実施していない拠点(アメリカ、台湾、韓国)で実施する。 ・CSR月間を通じてCSR意識調査、CSReラーニングを実施する。
・リスク評価をこれまでの3段階から10段階に変更しリスクマップを作成。 ・ローム一斉避難訓練およびBCM対策本部訓練を2013年度も実施。 ・ロームにてリスクコンサルティング会社を招いて講演会を2回開催。	★★★★	・BCPの見直しを行い、教育訓練によって浸透を図る。
・ロームグループ各社でISO9001マネジメントシステムを維持・向上し、ISO9001認証およびISO/TS16949認証を更新。 ・新たにラピスセミコンダクタ宮城/宮崎においてISO/TS16949認証を取得。	★★★★	・ISO9001マネジメントシステムを継続して維持・向上させる。 ※車載向け製品はISO/TS16949マネジメントシステムも維持・向上させる。
・ISO14001マネジメントシステムをロームグループで継続して維持・向上するため、統括内部監査や自己監査を定期的の実施。	★★★★	・ISO14001マネジメントシステムをロームグループで継続して維持・向上させる。
・OHSAS18001自己認証をロームグループに展開開始。	★★★★	・国内・海外主要生産会社へのOHSAS18001自己認証展開を促進する。
・誌上において各団体・企業の代表とローム社長、社員が社会的課題を解決できる製品についての対談を実施。	★★★★	・継続して政府機関/NPO/NGOとステークホルダーダイアログを開催するとともにCSVを通じて社会課題を解決できる製品開発の促進を図る。
・ロームグループ主要拠点において労働と倫理のマネジメントシステムに関する社内規定を制定し運用開始。	★★★★	・引き続きロームグループにおいて労働と倫理のマネジメントシステムを展開する。
・取引基本契約書の100%締結は未達。 ・非製造業のお取引先様に適したCSR対応「購買等基本契約書」を制定し締結作業継続。	★★★	・グローバルで100%を目標に締結作業継続。
・2014年4月からの導入に向け、公正・透明な人事、給与制度を構築。 ・外国人も参加したインターンシップを実施。 ・社員の働きに報いる、社長賞を2013年度から再開し、制度見直しを実施。 ・労働時間の適正管理に向け、勤務管理のシステム化を実施。	★★★	・公正・透明な人事、給与制度を導入する。 ・女性が活躍できる職場風土づくりと人事制度の見直しを行う。 ・組織風土変革推進委員会による風土改善を実現する。 ・新たな勤務管理システムの運用を定着させ、適切な労務管理を実現する。
・次世代リーダー研修を新規に導入。 ・若手海外研修制度の運用を開始し、2名を派遣。 ・語学留学制度の導入等、グローバル、語学学習インフラを強化。 ・グローバル人事ミーティングを開催し、各社の情報共有および標準化実現に向けた内容を検討。	★★★	・次世代リーダー研修の若年層(「第二階層」)への展開を図る。 ・グローバル人材の確保に向け、欧米・アジア各国における採用活動を積極化させる。 ・組織風土変革推進委員会による風土改善を実現する。 ・グループ全体の情報共有を実現する、グローバル人事システム構築に向けた検討を行う。
・ロームグループにおいて労働災害発生件数ゼロ達成。	★★★★	・ロームグループにおける労働災害発生件数ゼロを継続するため、労働安全衛生マネジメントシステムを展開する。
・CO₂排出量は、2012年度実績より5.5%削減。 ・CO₂排出量原単位は、2012年度実績より10.9%削減。 ・温室効果ガス(PFCs、SF₆など)排出量は、2012年度実績より8.2%削減。	★★★★	・CO₂排出量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・CO₂排出量原単位を、2013年度実績より1%削減する。 ・温室効果ガス(PFCs、SF₆など)排出量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。
・GHGプロトコルのスコープ1,2に対応し、バリューチェーンCO₂を把握するための仕組みを構築。 ・GHGプロトコルのスコープ3に準じた温室効果ガス算出を検討し、4つのカテゴリについて運用モデルを策定。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合は57%。	★★★	・スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し排出量を公開する。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合を60%にする。
・PRTR対象物質取扱量原単位は、2012年度実績より8.1%削減。 ・VOC排出量は、2012年度実績より20.0%削減。	★★★★	・PRTR対象物質取扱量原単位を、2013年度実績を維持する。 ・VOC排出量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。
・海外連結で廃棄物排出量原単位は、2012年度実績より14.3%削減。 ・水の投入量は、2012年度実績より5.4%削減。 ・国内連結でゼロエミッションを維持した。廃棄物排出量原単位は2012年度実績より18.2%削減。	★★★★	・海外連結で廃棄物排出量原単位を、2013年度実績値を維持する。 ・水の投入量を、2014年度生産量に応じた予測値より1%削減する。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位を2013年度実績を維持する。
・関係部門と連携し、京都市内の小学校5校において環境学習授業を実施。	★★★★	・CSR推進委員会が中心となり、更なる活性化を図る。
・グリーン調達ガイドラインを更新し、不使用/使用量遵守を継続。	★★★★	・ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を継続する。
・新入社員へ新任管理職への階層別コンプライアンス研修を継続実施。 ・「法務ガイドブック」を活用し、2013年4月から6月にかけてロームおよび国内生産会社で教育・啓発活動を展開。 ・社員向け「リーガルラーニング」によりインサイダー規制の教育を実施。 ・10月に国連グローバル・コンパクト、ISO26000、EICC行動規範を踏まえ、「ロームグループ行動指針」の改訂を実施。 ・10月の「CSR月間」において、ロームグループ海外関係会社を含めた全社で「ロームグループ行動指針」の教育・啓発活動を実施。 ・ロームグループ海外関係会社でのコンプライアンス教育ツールを改訂し、各社に展開。 ・セルフアセスメントツールをEICC行動規範に準拠した内容へ充実し、運用を開始。 ・主要お取引先様に直接訪問し確認を行う「CSR調達訪問確認」を開始。 ・責任ある紛争鉱物調達についての方針を明記したCSR調達ガイドラインをグローバルレベルで全お取引先様に配布。 ・関連する全お取引先様に紛争鉱物報告テンプレートで調査を依頼するとともに、結果をお客様に回答するシステムを社内に構築。 ・階層別研修の中で、贈収賄防止に関する教育を実施。 ・マネジメント層を対象として、外部講師を招聘し、贈収賄に関するセミナーを実施。	★★★★	・階層別コンプライアンス教育を継続実施する。 ・社員向け「リーガルラーニング」を実施する。 ・CSR月間においてコンプライアンスの啓発活動を継続実施する。 ・「法務ガイドブック」を活用したロームおよびロームグループ国内生産会社での教育・啓発活動を継続実施する。 ・海外において2013年度に改定した「Compliance Training Program」を使用した教育活動を実施する。 ・CSR調達セルフアセスメントを継続実施し、時系列に分析し適切な回答を行う。 ・CSR調達訪問確認をグループ会社においても実施する。 ・紛争鉱物報告テンプレートをを用いた調査を継続するとともに、調査内容を細分化する。 ・階層別教育などで贈収賄に関する教育を継続実施する。
・2013年7月、ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証取得。	★★★★	・セキュリティレベルの継続的な向上に向け、ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証更新を行う。
・CSR調達ガイドラインをグローバルのお取引先様に配布。 ・CSR調達セルフアセスメントツールを一層EICC準拠にした内容に見直しし運用開始。 ・CSR調達推進説明会を開催し、99社のお取引先様が参加。 ・主要お取引先様に直接訪問し確認を行う「CSR調達訪問確認」を開始。	★★★★	・CSR調達セルフアセスメントを継続実施し、時系列に分析し適切な対応を行う。 ・「CSR調達訪問確認」をグループ会社においても実施。
・不具合の徹底した真因追究で、再発防止を図るため、恒久対策と水平展開を実施。 ・過去の不具合分析とともに予防措置を含めた改善活動を推進。	★★★★	・新製品の設計品質の更なる向上と品質問題の徹底した分析、継続的な改善活動を実施する。
・10月のCSR月間においてCSRリーダー(全部門長)を対象とした研修の中でCSVについて教育を実施。	★★★★	・全社員にCSVについて浸透するための施策を実施する。
・地元京都の京都市交響楽団演奏会ほか、多くのコンサートへの協賛を実施。 ・公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションの事業を支援。	★★★★	・音楽文化に関する支援を継続する。
・京都サンガF.C.や京都学生祭典のスポンサー企業として地域貢献。 ・ロームシアター京都ネーミングライツ取得を通じて、京都府会館の再整備を支援。 ・フィリピンでの台風被害に対する義援金、生活物資寄贈を現地子会社と実施。	★★★★	・社会のニーズを捉えた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。
・社員参加型のモノづくり授業スキームを作成。 ・ローム記念館における大学生の研究プロジェクト支援。大学への奨学金設立。 ・ありがと本活動を通じ、東日本大震災の復興を支援。	★★★	・継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 ・社員参加型のモノづくり授業を開始する。

評価基準: ★★★★★目標・計画を達成 ★★★★★目標・計画と実績に軽微なずれが生じた ★目標・計画と実績に大幅なずれが生じた

会社概要

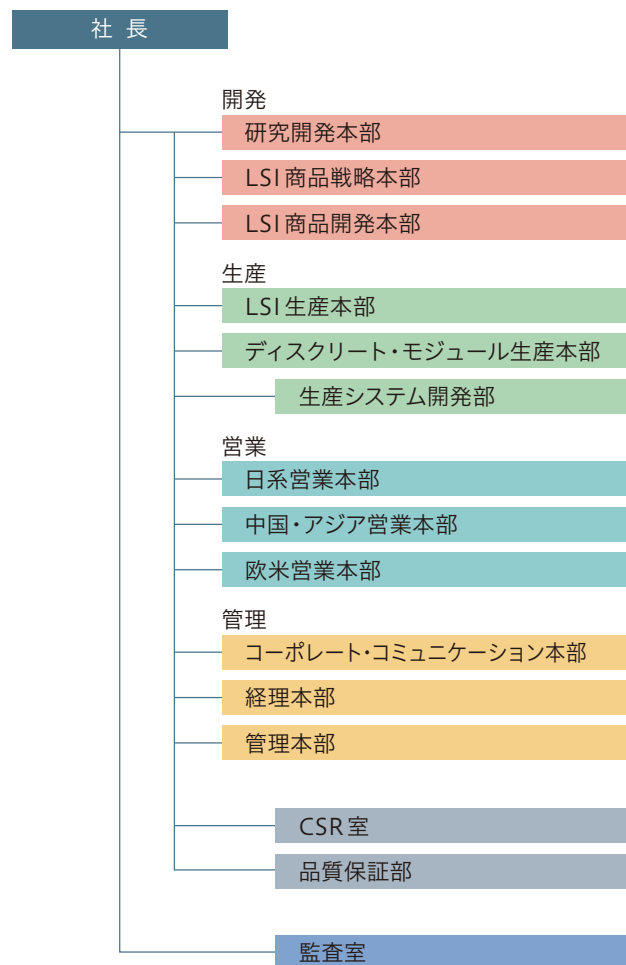
商 号 ローム株式会社 / ROHM Co., Ltd.
 本社所在地 〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
 TEL(075)311-2121 FAX(075)315-0172
 設立年月日 1958(昭和33)年9月17日
 代 表 者 代表取締役社長 澤村 諭
 資 本 金 86,969百万円(2014年3月31日現在)
 売 上 高 連結 331,087百万円(2014年3月期)

役員

代表取締役社長	澤村 諭
常務取締役	高須 秀視
取締役	藤原 忠信 佐々山 英一 高野 利紀 松本 功 東 克己 山崎 雅彦 川本 八郎 ★ 西岡 幸一 ★
監査役	柴田 義明 ★ 岩田 秀夫 ★ 玉生 靖人 ★ 村尾 慎哉 ★ 喜多村 晴雄 ★

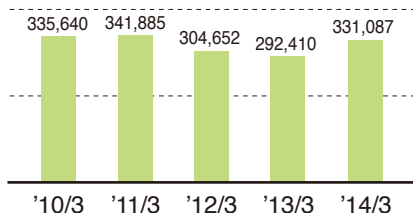
★は社外取締役
★は社外監査役

会社組織図



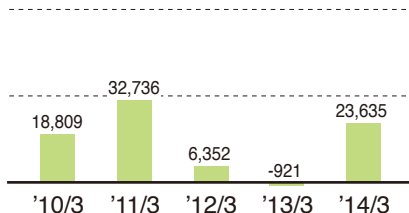
売上高

(百万円)



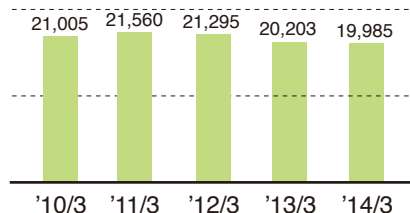
営業利益

(百万円)



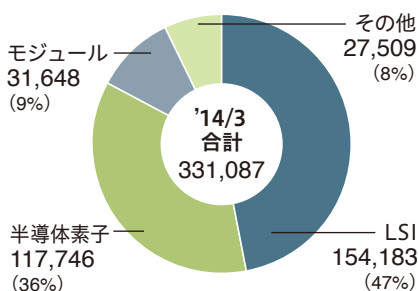
社員数

(人)



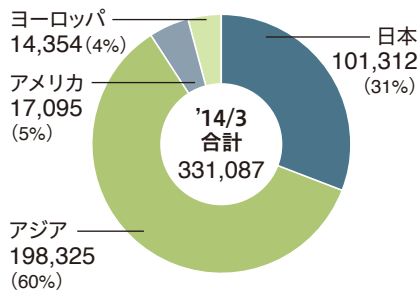
事業別売上高

(百万円)



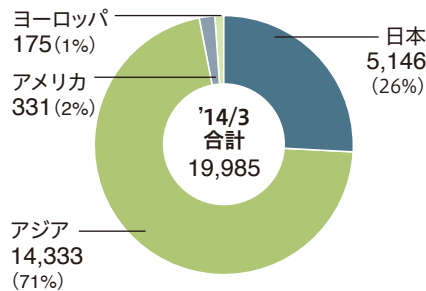
地域別売上高

(百万円)



地域別社員数

(人)



※百万円未満切捨て、その他は単位未満四捨五入

ロームグループ主要拠点

〈Japan〉

営業拠点

日系営業本部

京都	TEL:(075)365-1077	松本	TEL:(0263)34-8601
東京	TEL:(03)6280-0820	水戸	TEL:(029)300-0585
横浜	TEL:(045)476-2121	西東京	TEL:(042)648-7821
名古屋	TEL:(052)951-9311	仙台	TEL:(022)295-3011
福岡	TEL:(092)483-3496	高崎	TEL:(027)310-7111

生産拠点

ローム株式会社	TEL:(075)311-2121
ローム浜松株式会社	TEL:(053)468-1000
ローム・ワコー株式会社	TEL:(0865)67-0111
ローム・アポロ株式会社	TEL:(0943)32-3000
ローム・メカテック株式会社	TEL:(0771)25-4717
ラピスセミコンダクタ株式会社	TEL:(045)476-9212
ラピスセミコンダクタ宮城株式会社	TEL:(022)345-1211
ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社	TEL:(0985)85-5111
アグレッッド株式会社	TEL:(072)770-8060

開発拠点

京都テクノロジーセンター(本社)	TEL:(075)311-2121
京都テクノロジーセンター(京都駅前)	TEL:(075)365-1073
横浜テクノロジーセンター	TEL:(045)476-2131

物流・その他拠点

ローム・ロジステック株式会社	TEL:(0865)44-3181
成田技研株式会社	TEL:(06)6433-0410

〈Global〉

主要営業拠点

ASIA	ROHM Semiconductor Korea Corporation TEL: +82-2-8182-700
	ROHM Semiconductor Trading (Dalian) Co., Ltd. TEL: +86-411-8230-8549
	ROHM Semiconductor (Shanghai) Co., Ltd. TEL: +86-21-6072-8612
	ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd. TEL: +86-755-8307-3008
	ROHM Semiconductor Hong Kong Co., Ltd. TEL: +852-2740-6262
	ROHM Semiconductor Taiwan Co., Ltd. TEL: +886-2-2500-6956
	ROHM Semiconductor Singapore Pte. Ltd. TEL: +65-6436-5100
	ROHM Semiconductor Philippines Corporation TEL: +63-2-807-6872
	ROHM Semiconductor (Thailand) Co., Ltd. TEL: +66-2-254-4890
	ROHM Semiconductor Malaysia Sdn. Bhd. TEL: +60-3-7931-8155
AMERICA	ROHM Semiconductor India Pvt. Ltd. TEL: +91-44-4352-0008
	ROHM Semiconductor U.S.A., LLC TEL: +1-408-720-1900
EUROPE	ROHM Semiconductor do Brasil Ltda. TEL: +55-11-3539-6320
	ROHM Semiconductor GmbH TEL: +49-2154-921-0

生産拠点

ASIA	ROHM Korea Corporation TEL: +82-2-8182-600
	ROHM Electronics Philippines, Inc. TEL: +63-2-894-1536
	ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd. TEL: +66-2-909-7100
	ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd. TEL: +86-22-8398-9000
	ROHM Electronics Dalian Co., Ltd. TEL: +86-411-8762-0001
	ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. TEL: +60-9-7741500
	ROHM Mechatech Philippines, Inc. TEL: +63-46-430-2281
	ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd. TEL: +66-36-374-580~4
	ROHM Mechatech (Tianjin) Co., Ltd. TEL: +86-22-2388-8585
	Kionix, Inc. TEL: +1-607-257-1080
AMERICA	SiCrystal AG TEL: +49-911-8177599-0

開発拠点

ASIA	Korea Design Center	TEL: +82-2-8182-785
	Shanghai Design Center	TEL: +86-21-6072-8612
	Shenzhen Design Center	TEL: +86-755-8307-3008
	Taiwan Design Center	TEL: +886-2-2500-9390
AMERICA	America Design Center (San Diego)	TEL: +1-858-625-3600
	America Design Center (Santa Clara)	TEL: +1-408-720-1900
EUROPE	Europe Design Center	TEL: +49-2154-9210



www.rohm.co.jp

